

提案リスト 2019



令和元年12月27日

津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議

■ 目次

I 提案リスト

3ページ～43ページ

津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議の今まで（平成 25～30 年度）の提案と今年度の全体会議及びチーム会議で提案されたものについて、
取組ごとの連携や相乗効果を図るため、分野ごとに取りまとめました。

- 産業・雇用分野（観光）
- 産業・雇用分野（観光以外）
- 安全・安心、健康分野
- 環境分野
- 教育・人づくり分野
- その他
- 北海道新幹線開業以前の状態を前提としたもの

II 参考資料

44ページ～59ページ

λ（ラムダ）プロジェクトや津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議の説明です。

- 1 津軽海峡交流圏の形成を目指して～λ（ラムダ）プロジェクト～
- 2 津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議名簿
- 3 青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議及び津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議の記録
- 4 北海道新幹線 新青森・新函館北斗間について

通番	テーマ	提案 年度	取組状況		ページ数
			ラムダ作戦会議・ 企業団体等	行政	
■産業・雇用分野(観光)					
NEW 1	津軽海峡交流圏関西売込大作戦	31			10
NEW 2	津軽海峡交流圏をより広く知らしめる	31			10
NEW 3	津軽海峡交流圏の旅の提案と、新幹線とリンクした二次交通の案内の徹底	31			10
NEW 4	クルーズ船との連携	31			10
NEW 5	オーシャンズセブン「津軽海峡横断泳」によるアクティビティの聖地化	31			11
NEW 6	「縄文×津軽海峡交流圏」コラボ企画の集中展開	31			11
NEW 7	今話題の「YouTuber」を活用した津軽海峡トレイルの魅力発信	31			12
NEW 8	津軽海峡交流圏で、企業と連携したトレイルイベントを開催	31			12
NEW 9	津軽海峡に乾杯！	31			12
10	津軽海峡圏「昔っこ語りネット」	30			12
11	観光案内所スタッフ対抗！ 津軽海峡ケンミンショー	30			12
12	「もう一泊して〇〇へ」観光情報サイトでの相互の情報発信	30			12
13	津軽海峡交流圏の旅	30			12
14	津軽海峡交流圏のご当地自慢	30			13
15	津軽海峡でつながる 学べる旅 似ているようで違う、違うようで似ている津軽海峡交流圏	29			13
16	津軽海峡冬景色を楽しもう！「ラムダの宿」による連携	29			13
17	津軽海峡☆婚活大作戦・「大人の修学旅行」で赤い糸を探そう！	29			13
18	あなたを喜ばすためのビジネス創出大作戦～稼ぐ力を持った新たな ビジネスモデルを創出する津軽海峡交流圏版DMO創設へ～	29			13

通番	テーマ	提案年度	取組状況		ページ数
			ラムダ作戦会議・企業団体等	行政	
19	ゴールデンルートと爆買いに飽きたら、津軽海峡を周遊でしょ！ インバウンド・越境EC企画	28			13
20	マグ女が勝手に、青函泊覧会(略して、マグ女のセイカン)	27	○	○	14
21	演歌で巡る 津軽海峡圏	27	○		14
22	津軽海峡圏ぐるりゆるりの飲み旅ガイド	27	○	○	15
23	自由自在・青森の自然満喫！PARTⅡ～体験編～	27		○	15
24	神秘の森に眠る産業近代化遺産の記憶とツーリズムの連携へ	27	○	○	15
25	どこでも、誰でもできる“おもてなし”地域住民が参加する「おもてなし短冊」で旅行者を熱烈歓迎&地域のおもてなし力向上作戦	27	○		16
26	新幹線もいいけど、在来線もね！	27			16
27	毎日どこかでバトルが勃発する熱い地域・津軽海峡交流圏	26	○	○	16
28	圏民ショー！みんなでやれば怖くない。	26	○	○	17
29	求む！津軽海峡交流圏「鉄旅」プラン	26		○	17
30	五感で味わおう奥津軽の自然と風	26	○	○	17
31	もっとエバろう青森県！アオモリセールスマン増産プロジェクト	26	○	○	18
32	絶対的に青森に行きたくなる理由づくりプロジェクト	26		○	18
33	「らしさ」を磨こう	26			18
34	MY FIRST AOMORI&HAKODATE ～初めて訪れる外国人にも日本人にも満足してもらえる「鉄板」コースの設定～	26		○	18
35	津軽海峡でJ A P A N ！	26	○	○	19
36	津軽海峡で生物境界線を感じよう	26			19
37	奥津軽 明日はひとつになろう！	26	○	○	20

通番	テーマ	提案年度	取組状況		ページ数
			ラムダ作戦会議・企業団体等	行政	
38	奥津軽いまべつ駅に降りたくなるわけをみんなで妄想・実現しよう！	26			20
39	自由自在、青森の自然満喫！	26	○	○	21
40	フェリーの積極的活用	25	○	○	21
41	青森県と道南との交通機関等の連携	25	○		21
42	マグロ女子バトル勃発	25	○	○	22
43	津軽・下北半島満喫女子グルメライド	25	○	○	23
44	地元民と交流できるマッチングサイトづくり	25			23
45	津軽海峡交流圏をエリアとした情報誌の制作	25	○	○	23
46	奥津軽いまべつ駅を降りた人を徹底的におもてなし	25		○	23
47	自然を生かした遊びづくり	25	○	○	23
48	どれがお好み？食のコース対決	25		○	24
49	看板だけの美術館	25			24
50	+1運動	25			24
51	個人移動者をターゲットとした代表的なルートの作成	25		○	24
52	津軽V.S南部にそろそろ決着・綱引き大合戦	25			24
53	交通アクセスの不便さを楽しみに変える仕掛け	25			24
54	鉄道路線毎の体験プログラムの作成・商品化	25	○	○	25
55	100人のよそ者による地元の気づきおこし	25			25
56	バス、タクシー、レンタカーを利用しやすくする	25		○	25

通番	テーマ	提案年度	取組状況		ページ数
			ラムダ作戦会議・企業団体等	行政	
57	レンタサイクルの充実	25		○	25
58	古民家活用による宿泊場所の拡大	25	○		26
59	県民参加型CM映像等の制作	25			26
60	青森県版三都物語の提案	25		○	26
61	作家や文化人を活用した情報発信	25		○	26
■産業・雇用分野(観光以外)					
NEW 62	津軽海峡交流圏 伝統芸能交流の深化(による、地域産業活性化)	31	○		26
NEW 63	県外海外へ届け。口コミとかSNSとか、委員の個人力でPR大作戦 ～マギユロウはどこまで一人泳ぎさせられるか～	31	○	○	27
NEW 64	津軽海峡圏ヒト・コト発掘・発信	31			27
65	津軽海峡ブランド価値向上作戦	30		○	27
66	“津軽海峡”地域カテゴリー・ブランドの確立	29	○		27
67	AOMORI HIBAブランドを牽引する新たなヒバ材を使った商品を世界へ！ ～津軽海峡圏を青森ひばまるごとミュージアムに！～	28			27
68	新幹線に乗っちゃって、在来線にも乗っちゃって！	28		○	28
69	青森県内を自分のオフィス代わりに！ ～移住でも観光でも企業誘致でもない誘客作戦～	28			28
70	待ってるだけじゃ物足りない！友好都市の大連の富裕層にPR/販促イベント企画	28			28
71	ショートムービー「ヒバの樹海」の制作・配信	27			28
72	津軽海峡といえば、マグロだべさ。マグロで徹底バトル！	26	○	○	28
73	函青(感性)を活かした海峡ブランド商品づくり	26	○		29
74	津軽海峡交流圏のシンボルは何？	26			29

通番	テーマ	提案年度	取組状況		ページ数
			ラムダ作戦会議・企業団体等	行政	
75	“青森流遊び心＝青森流幸福論”による観光と物づくり:青森ひばの森と生きる	26	○		29
76	海峡に着目したイベントの推進	25	○		30
77	津軽海峡交流圏の地図の制作	25		○	30
78	奥津軽いまべつ駅を「みんなの駅」にする仕掛け	25	○	○	30
79	子ども向けテレビ番組の制作(イカール星人VSマギユロウ)	25			30
80	海峡ソングの制作～津軽海峡・冬景色に続け	25			30
81	ラムダシンボルマークの制作	25	○	○	31
82	船上アウトレットモールの開発	25			31
83	奥津軽いまべつ駅の名物づくり	25			31
84	青森ひばで感動づくり	25	○	○	31
85	ターゲットを意識した商品開発、プロモーション	25	○	○	32-33
86	ザ・ご当地グルメ100プロジェクト2020	25	○		33
87	青森らしさを整理するためのポテンシャルブックの作成	25		○	33
88	雪プロジェクトの推進	25		○	33
89	クルージング等の商品開発	25			33
■安全・安心、健康分野					
NEW 90	津軽海峡交流圏 ヘルスツーリズムの展開	31	○	○	34
91	これぞ青森！ 青空に近づこうプロジェクト	27	○		34
92	県内医療機関への先進医療機器の導入	27			35

通番	テーマ	提案年度	取組状況		ページ数
			ラムダ作戦会議・企業団体等	行政	
93	クアオルト(健康保養地)づくり 「青森の自然・温泉・食」※「最新ドイツ式ウォーキング」※「健康保養地としての地域づくり」	26	○	○	35
94	今は短命県だけど！もっと健康になれる青森！	26			35
95	国際競技大会の開催(トライアスロンなど)	25			35
96	クアオルト(健康保養地)づくり	25		○	36
97	津軽海峡バリアフリースターセンター(仮称)の開設	25			36
■環境分野					
NEW 98	海洋汚染問題	31			36
■教育・人づくり分野					
NEW 99	学生が青函の将来を考える	31			36
NEW 100	津軽海峡交流圏における地域おこし経験継承事業「ラムダ塾」	31		○	37
NEW 101	虹の架け橋プロジェクト	31			37
NEW 102	青森県、道南地域子どもたちによるのお祭り、伝統芸能への合同参加	31			37
NEW 103	子どもたちによる青函交通モードレポート集	31			37
NEW 104	津軽海峡交流圏に残る伝統芸能のアーカイブ作成	31			37
NEW 105	津軽海峡交流圏「ちがうもの」「おなじもの」探し	31			37
NEW 106	子どもたちによる、縄文など青森県・道南地域の歴史を調べての情報発信	31			38
NEW 107	立志挑戦塾との連携・コラボ	31			38
108	青函連絡船フォーエバー企画・セイカン★行商大作戦！	30			38
109	函館・青森美食の合同次世代育成プログラム	29	○		38

通番	テーマ	提案年度	取組状況		ページ数
			ラムダ作戦会議・企業団体等	行政	
110	津軽海峡交流圏インターンシップ事業	29		○	38
111	つながろう、農林水産高校生！！	29			38
112	津軽海峡ユニバーシティで学ぼう！	28			39
113	来て！見て！暮らして！ 津軽海峡交流圏ロングホームステイ	27	○		39
114	歌でつなぐ津軽海峡プロジェクト2	27			39
115	歌でつなぐ津軽海峡プロジェクト	26			39
116	キャンプで賑わう奥津軽いまべつ駅周辺づくり	25			39
117	トモダチ100人できるかな！	26	○		40
118	縄文人は津軽海峡を泳いだの！？	26		○	40
119	そもそも「津軽海峡交流圏」ってなあに？	26			40
120	青森県版聞き書き甲子園の実施	25			40
121	津軽海峡を挟んで同世代がつながる仕組み	25	○	○	41
122	県民が県内を知る仕組み、きっかけづくり	25		○	42
123	シンボル資源を再認識する場づくり	25		○	42
124	100人以上でワールドカフェミーティング	25			42
■その他					
125	世界の海峡圏との連携体制の構築	25	○		43
126	県の政策を積極的にPRする条例の制定	25			43
■北海道新幹線開業以前の状態を前提としたもの					
127	奥津軽いまべつ駅に特急を臨時停車してもらおう仕掛け	25			43
128	新幹線の路線愛称「青函新幹線」の制定	25			43

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
■産業・雇用分野(観光)					
NEW 1	津軽海峡交流圏関西売込大作戦	関西方面から東北エリアへの観光客としてのマーケットの可能性はまだまだ伸びる要素があると思われる。一方、北海道への観光への意識はこれまでも高いことから、津軽海峡圏として売り込むことにより、新しい旅のデスティネーションとして魅力を認知してもらおう。ラムダ委員で大間、津軽、県南、道南のツアープログラムを組み、関西からの誘客を図る。	31		
NEW 2	津軽海峡交流圏をより広く知らしめる	マグ女をはじめとする委員の活動を盛り込んだ観光案内や巡る移動の手段の紹介、子供たちを含め青函双方に住む方たちに対する啓蒙イベントなど、これまでも多少なりとも取り組んできたことを固める方向。 また、津軽海峡交流圏の先駆けとして、双方の縄文遺跡についても、世界遺産への推薦を機になにかしらからめていければと考えている。	31		
NEW 3	津軽海峡交流圏の旅の提案と、新幹線とリンクした二次交通の案内の徹底	観光地、グルメほか大人向けの津軽海峡交流圏を巡る旅の案内、情報を整理する。可能であれば宿を含めた観光関連施設にも協力を要請し、広域で「巡る」旅への周知を深めながら、ツアーの商品化を目指す。 新幹線(JR)を中心としつつ、在来線、フェリー、バス、タクシー、レンタカー、自転車などの二次交通に関する情報も集約、もしくは整理してウェブ等で紹介する。 各地のインフォメーションや宿泊施設などの情報発信関係者にも根付くような活動をする。	31		
NEW 4	クルーズ船との連携	クルーズ誘致の際に単独でなく青森、函館の双方に寄港(例:2019年4月、5月、10月の「シルバーミュージック」)する流れを確実に進める。ヘリや水陸両用飛行機といった二次交通の選択肢や、小型船を利用して小さな港町で生産者と交流しつつ魚介類を味わってもらい、郷土芸能を楽しんでもらうなどもてなしの幅を広げ(例:瀬戸内の高級クルーズ「ガンツウ」ではひじきや無農薬野菜の生産者を訪問)、津軽海峡交流圏をより意識したより多彩な受け入れ体制を整える。	31		

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
NEW 5	オーシャンズセブン「津軽海峡横断泳」によるアクティビティの聖地化	<p>オーシャンズセブンの一つに数えられる「津軽海峡横断泳」を活用して、津軽海峡交流圏をアクティビティの聖地としていくことを目指す。</p> <p>1 資源の整理 (1)津軽海峡横断泳をはじめとするアウトドア・アクティビティの資源の整理 水泳、カヌー、自転車、トレッキングなど 2 魅力のPR (1)マップ・ルートの作成、発信 日本語、英語などのマップやモデルルートを作成して、WEBにおいて発信する。 (2)インフルエンサーによる情報発信 アウトドア アクティビティに関連するインフルエンサー(英語圏)の招聘による情報発信を実施</p> <p>[オーシャンズセブン] 激しい潮の流れや大きくうねる波にうち勝ち海を渡る「海峡横断泳」。津軽海峡は、英仏間のドーバー海峡や米カリフォルニア州のカタリナ海峡ほか、世界のスイマーが憧れる七つの海峡「オーシャンズセブン」に数えられ、最も難易度が高いといわれている。</p>	31		
NEW 6	「縄文×津軽海峡交流圏」コラボ企画の集中展開	<p>「北海道・北東北の縄文遺跡群」の2021年の登録実現に向け、益々注目が高まる中で、エリアの多くが重なる縄文と津軽海峡交流圏のコラボ企画を集中的に展開し、津軽海峡交流圏の形成につなげていく。</p> <p>1 WEB及び拠点での情報発信 縄文時代からの津軽海峡圏域の交流の歴史や価値、現在の資源の情報等を整理・紹介する。WEB(ホームページ及びSNS)や、点在する資源をまとめて情報発信するリアルなPR拠点の設置・運営。</p> <p>2 「津軽海峡×縄文」の特産品・クラフトの開発</p> <p>3 「津軽海峡×縄文」の観光コースの開発</p>	31		

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
NEW 7	今話題の「YouTuber」を活用した津軽海峡トレイルの魅力発信	近年のスマホ世代の若者にとって比較的身近な存在である「YouTuber」に津軽海峡トレイルを体験してもらい、体験動画を投稿してもらおう。「YouTuber」が体験したということきっかけに、動画視聴者の(自然を感じたい、健康増進、おいしい食事 等の)潜在的な需要を喚起し、圏域内や圏域外からの交流を拡大させる。	31		
NEW 8	津軽海峡交流圏で、企業と連携したトレイルイベントを開催	津軽海峡トレイルを舞台としたイベントを企業と連携して開催し、当該企業は商品のPRを、青森県はトレイルのPRや交流の拡大を目的とする。 連携する企業については、トレイルに係る企業に限らず、食や音楽やカメラほか多種多様な企業との連携を津軽海峡トレイルを舞台に開催する。	31		
NEW 9	津軽海峡に乾杯！	津軽海峡交流圏から人気No1の酒(アルコール)を選ぶ。 消費(購入)することで投票権を得て、得票数の多さでNo1を競う。 (津軽交流圏に本社・支社・工場を構える団体が生産する商品が参加対象。日本酒・地ビール・ワイン・シードル等、アルコールの種類は問わない) 【目的】 1 生産者(津軽海峡交流圏)の充実・拡大と生産・加工レベルの向上。 2 消費者の拡大とコアファンの獲得。	31		
10	津軽海峡圏「昔っこ語りネット」	青森県と道南地域の共通の文化資源である民話や民謡を掘り起し、その魅力を再認識し、津軽海峡交流圏の「ひと」の魅力と合わせて情報発信する。	30		
11	観光案内所スタッフ対抗！ 津軽海峡ケンミンショー	観光の最前線にいる青森県と道南地域の観光案内所スタッフを対象とした現地体験型の研修と交流を通じて、双方の魅力を理解してもらい、来訪者への津軽海峡交流圏PRに活用する。	30		
12	「もう一泊して〇〇へ」観光情報サイトでの相互の情報発信	青森県や道南地域を旅行を考えている方たちに「もう一泊して北海道へ」「もう一泊して青森へ」というキャッチコピーを使い、両地域の自治体や観光協会で共通の情報を提供するなど、宿泊日数を伸ばすような情報発信を行う。	30		
13	津軽海峡交流圏の旅	津軽海峡交流圏の認知度を高めるため、青森、弘前、八戸、金木、大間、函館、江差など、ラムダ委員がいる町を含め、酒と特産品の紹介や新幹線を軸とした旅のおすすめルートなど津軽海峡交流圏をめぐる大人の旅を広める提案。	30		

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
14	津軽海峡交流圏のご当地自慢	圏域外の方に津軽海峡交流圏に興味を持ってもらうため、津軽海峡交流圏のちょっと変わったご当地自慢(イベント)を開催し、紹介された人やモノを実際に訪ねるツアーを行う。	30		
15	津軽海峡でつながる 学べる旅 似ているようで違う、違うようで似ている津軽海峡交流圏	旅に視察や研修という「学び」の要素やこの圏域にある独特な歴史文化及び郷土芸能を継承するための取組を組み込み、「学べる旅」を提案することにより、圏域内の交流機会を増やし地域への誇りや共通理解を確立する。	29		
16	津軽海峡冬景色を楽しもう!「ラムダの宿」による連携	圏域内の宿泊施設を「ラムダの宿」として登録し、この宿を拠点にした冬の津軽海峡交流圏を楽しむコースを設定するとともに、圏域内の方に、青森県から道南へ、また道南から青森県へと小さな旅を提案することにより、お互いの良さの再認識、さらには相互の連携強化へつなげる。	29		
17	津軽海峡☆婚活大作戦・「大人の修学旅行」で赤い糸を探そう!	修学旅行で互いに訪れた経験を持つ青森県と道南の男女による「大人の修学旅行」と題した婚活イベントや、大人ならではの「食べて呑む」を満喫する旅を通じて、圏域内の出会いを創出する。	29		
18	あなたを喜ばすためのビジネス創出大作戦～稼ぐ力を持った新たなビジネスモデルを創出する津軽海峡交流圏版DMO創設へ～	圏域内を活性化させ、さらに圏域外から訪れる方を満足させるために、圏域内の観光産業全体を支える新たな機能を持つ、ビジネス創出の基盤づくりとなるDMO的役割を持つプロデュース組織の具体化。	29		
19	ゴールデンルートと爆買いに飽きたら、津軽海峡を周遊でしょ! インバウンド・越境EC企画	インバウンドの経済効果よりも注目されている越境ECを活用することにより、人と情報の流れを追跡し、青森県の情報発信に役立てる。	28		

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
20	マグ女が勝手に、青函泊覧会(略して、マグ女のセイカン)	津軽海峡マグロ女子会がそれぞれのフィールドでおもてなし企画を同時多発的に実施。訪れたお客さんがマグロのように津軽海峡圏を回遊してくれるのでは？エリア内の「どこかで」「なにかを」やっているように企画・プログラムを集積することで津軽海峡圏を面の観光エリアにするとともに、マグロ女子の図抜けた発信力・行動力を生かして全国的な話題性づくりを行い、昭和63年の「青函博」のように、いま再び津軽海峡圏の一体感を生み出す。	27	<ul style="list-style-type: none"> ■平成26年度、「津軽海峡マグロ女子会」が発足。 ■平成28年度発表、青函の味「駅弁」をマグロ女子会が開発。 ■平成28年度、「マグ女のセイカン♡博覧会」青函DCスペシャルの先行開催。 ■平成28年度、DC終了後の閑散期を盛り上げるため、「津軽海峡マグロ女子会セイカン博覧会」を開催。 ■平成29年度、「マグ女のセイカン♡博覧会」開催。 ■平成29年度、マグ女に続く女性たちの町おこし団体の誕生。 ■平成29年度、「第9回観光庁長官表彰」及び「女性のチャレンジ賞」の受賞。 ■平成30年4月14日～、東奥日報の夕刊に地域活性化エッセーを定期掲載。 ■平成30年6月5日、観光庁の「観光地域づくり事例集」でマグロ女子会の取組を紹介。 ■平成30年9月15日～11月30日、第3回目「マグ女のセイカン♡博覧会」を開催。 ■令和元年9月1日～11月30日、「マグ女のセイカン♡博覧会2019」を開催。 	■⑳㉑東青・道南地域連携型観光推進事業(東青地域県民局)
21	演歌で巡る 津軽海峡圏	津軽海峡圏は数多くの歌の舞台となっており、多くの方に親しまれているとともに、日本を代表する演歌歌手が誕生している。こうした歌の舞台となった風景や歌手のゆかりの地などを巡る旅は全国に発信しやすく、いくつかの歌をつないで津軽海峡圏をめぐることができる。旅行者にとっては、実際に歌手に会えなくても、親戚や友人などから話を聞いたり、行きつけのお店を紹介してもらうことなども旅の楽しみとなる。	27	■平成27年度、観光関係者による現地視察モニターツアー及び一般募集によるツアー実施。	

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
22	津軽海峡圏ぐるりゆるりの飲み旅ガイド	道中でお酒を飲めるのは、電車旅の魅力のひとつであることから、酒や特産品の紹介を行うとともに、新幹線を軸とした旅のオススメの提案を行う。また、公共交通機関の本数や手段が限られたエリアでは、飲食しながら「ゆるり待つ楽しみ」へと導く発想の転換や、飲食店の有無にかかわらず、自然や情緒ある景色を肴に飲むという方法もある。	27	■平成28年度、青森県内と道南地域の酒造所を巡るスタンプラリーの開催。	■平成28年度、青森県と北海道の共同事業により「周遊ガイドブック」を作成。
23	自由自在・青森の自然満喫！PARTⅡ～体験編～	旬の果物・野菜など、青森の魅力的な素材を生かして、自然を満喫できる「自由散策」に「食」に関する体験プログラムを加えることで、地域の新たな発見や地元の人との交流が深まり、訪れた方たちに充実感を持ってもらうことができる。できれば短時間でできるプログラムをたくさん用意し、空いた時間を埋めることができるので、それらをスムーズに体験できるシステムを作り上げる。	27		■⑳㉑白神山地「選ばれる世界遺産」プロジェクト事業(環境生活部)
24	神秘の森に眠る産業近代化遺産の記憶とツーリズムの連携へ	津軽半島に共通する地域DNAは「青森ひばの森」と「旧津軽森林鉄道」の記憶であり、それを地域づくりと効果的に結び付けることで滞在交流型の観光が成り立つと考えている。津軽半島各地に残る森林鉄道の遺構やひばの森をピックアップし、それらの場所を周遊させる手段としてトレイルルートの可能性を調査し、整備していく。	27	<ul style="list-style-type: none"> ■平成25年度、「奥津軽トレイル」ルートの開発と受入体制の整備、及び観光商品(特産品)開発を実施。 ■平成26～28年度、下北・津軽・檜山のひば連携。 ■平成27年度、「奥津軽トレイル」のコース拡充に向けて受入体制準備。 ■平成28年度、「奥津軽トレイル」3本(歩行距離約34キロ)から8本(約117キロ)に拡充。 ■平成30年8月24日、我が国初の森林鉄道「津軽森林鉄道」遺構群及び関係資料群「林業遺産」選定記念シンポジウム開催。 ■平成30年9月～平成31年2月、「奥津軽ウェルネス博」の開催。 	■平成30年度ヘルスケアサービスビジネスモデル実証事業

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
25	どこでも、誰でもできる“おもてなし”地域住民が参加する「おもてなし短冊」で旅行者を熱烈歓迎&地域のおもてなし力向上作戦	イベントや大規模な会議などで旅行者が訪れる機会を活用して、駅や商店街などに「おもてなし短冊」を掲示する。 住民が気軽に旅行者のおもてなしに参加できる企画を実施することで、地域のイメージアップにつなげるとともに、住民にとっては今後の“おもてなし”精神を醸成する機会を創出することで、普段から何気なくできる“おもてなし”を定着させ、将来的には“おもてなし”の企画ができるような人材の育成にもつなげる。	27	■平成27年度、「日本青年会議所全国大会」や10月の「B-1グランプリin十和田」でおもてなし短冊を提示。	
26	新幹線もいいけど、在来線もね！	青森県には、JR線以外にも私鉄や廃線になった鉄道の列車や駅舎などが保存されるなど、バラエティ豊かな鉄道資源が数多くあることから、これらを観光資源として活用し、旅行者の滞在時間を延ばし、県内での飲食・土産物の売上も伸ばす。 「あおり旅鉄・モデルプラン」の一般募集や、「ラムダ駅弁(仮称)」発売などについて検討する。	27		
27	毎日どこかでバトルが勃発する熱い地域・津軽海峡交流圏	津軽海峡交流圏を「日本で最も熱い地域」に見立てて、様々な分野での対決を通じ、地元の人が地域資源の見直しを図るきっかけづくりをする。 また、バトルカレンダーやバトルマップを作成し、バトルをめぐるツアーなどを作って、圏域内を周遊させる仕掛けづくりをする。	26	■平成27年度、ABA「りんご娘の産地直送☆青森最高！」の放送、A-streamへの出演。 ■平成27年度、「青函ラジオ～津軽海峡・春景色2015～」への出演。 ■平成27年度、奥津軽いまべつ駅応援メッセージ。 ■平成28年度・28年度、弘前バル街での津軽海峡交流圏PRステージ。 ■平成29年度、はこだてクリスマスファンタジーでの津軽海峡交流圏PRステージ。 ■平成30年2月3日・7月14日、弘前バル街での津軽海峡交流圏PRステージ。	■平成27年度、青森県と北海道の共同事業として、木古内町及び青森市にて、青森県と道南地域のご当地グルメ・方言・ゆるキャラなど、それぞれの魅力をバトル形式でPRし、聴衆に判定してもらうイベントを開催。

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
28	圏民ショー！みんなでやれば怖くない。	津軽海峡交流圏に住む人を「圏民」と呼び、圏民ならではの固有の習慣などを掘り起こす。また、期間や場所を決めて、徹底的にアピールする(みんなでほっかむり、とにかく列車が通ったら手ふり、乾杯はシードル、雪かき歌・雪かき体操の開発など)。また、出てきたネタを活かして、両エリアの新聞社による記事企画(シリーズ圏民ショー)や、ケンミンショーのパロディー企画(津軽海峡交流圏民ショー)を行う。	26	<p>■平成25年度、「青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 公開ナマ作戦会議～北海道新幹線開業まであと2年～津軽海峡交流圏を盛り上げよう！」を青森市内で開催。</p> <p>■平成26年度、「津軽海峡交流圏公開生バトルIN函館」を函館市内で開催。</p> <p>■平成28年度、「新幹線に乗っちゃって！」青函DC盛り上げバージョン動画の公開。</p>	<p>■平成27年度、青森県と北海道の共同事業として、木古内町及び青森市にて、青森県と道南地域のご当地グルメ・方言・ゆるキャラなど、それぞれの魅力をバトル形式でPRし、聴衆に判定してもらうイベントを開催。</p> <p>■⑳㉑λ(ラムダ)プロジェクト加速化事業(企画政策部)</p> <p>■㉒㉓λ(ラムダ)プロジェクト道南連携強化事業(企画政策部)</p>
29	求む！津軽海峡交流圏「鉄旅」プラン	鉄道ファンの中には、乗るだけでなく、写真を撮る、音を録る、駅弁を楽しむなど、様々な楽しみ方や魅力があることを理解する。北海道新幹線開業を一つのチャンスと捉え、県内の様々な列車などにも目を向けてもらうような「仕掛け」を作る。「あなただったらどう旅する？ ラムダ旅鉄コンテスト」と題し、津軽海峡交流圏の魅力が感じられる旅のプランを募集して、楽しみ方のアイデアとして県内外にアピールする。	26		㉔青い森鉄道外国人観光客利用促進事業(企画政策部)
30	五感で味わおう奥津軽の自然と風	三厩駅からほど遠くない山間部にある「緑の里みんなまや・やすらぎ公園」はキャンプサイトや研修施設等が整っている。これを東側の入口とし、西側の国道竜泊ラインを結ぶ全長約21キロの「ひば峡道」ルートは、青森ひばやブナの巨木にあふれ、数多くの滝があり、奥津軽トレイルの最長ルートとして豊かな半島イメージを五感で味わえる、全国的に通用する場所。これにより、JR津軽線・海峡線の活性化にもつながる。今後、ラムダフェスティバルウォークなどが実施できれば面白い。	26	<p>■平成25年度、「奥津軽トレイル」ルートの開発と受入体制の整備、及び観光商品(特産品)開発を実施。</p> <p>■平成26～28年度、下北・津軽・檜山のひば連携。</p> <p>■平成27年度、「奥津軽トレイル」のコース拡充に向けて受入体制準備。</p> <p>■平成28年度、「奥津軽トレイル」3本(歩行距離約34キロ)から8本(約117キロ)に拡充。</p> <p>■平成30年8月24日、我が国初の森林鉄道「津軽森林鉄道」遺構群及び関係資料群「林業遺産」選定記念シンポジウム開催。</p> <p>■平成30年9月～平成31年2月、「奥津軽ウェルネス博」の開催。</p>	<p>■㉕㉖東青地域アクティビティ推進事業(東青地域県民局)</p> <p>■平成30年度ヘルスケアサービスビジネスモデル実証事業</p>

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
31	もっとエバろう青森県！アオモリセールスマン増産プロジェクト	<p>圏民が地域のことを知り、自慢に思えば、ついあれこれ紹介したくなるものであることから、県民に青森はすごいところだと認識してもらうことで、青森県のおもてなし力を上げる。</p> <p>また、県外の方に青森を褒めてもらい、メディアを活用してPRしたり、啓蒙イベントを実施する。最終的には、県民みんなが青森県のセールスマンとなり、青森を全国に、世界に売り込んでいく。</p> <p>さらに、短命県や喫煙率の高さなど、身近な課題を認識し、課題を解決していくことにより、豊かに暮らしていることをアピールする。</p>	26	<p>■平成27年度、A-project(青森公立大学の学生団体)による「今別レポート」の提案。</p>	<p>■⑳つながる県民もっと拡大事業(企画政策部)</p>
32	絶対的に青森に行きたくなる理由づくりプロジェクト	<p>絶対的に青森や函館でしか体験できないことを明確にする。食・健康・トレッキングなど、それぞれのニーズに応える商品づくりでターゲット別に津軽海峡交流圏を形成する。トレッキング目的の人に対しては、既存の焦点を利活用したツアー商品を提供するなど、狭いターゲットを設定することで何度も行き来してもらえるよう仕掛ける。</p> <p>また、県内の観光(特に着地型体験ツアー)ポータルサイトを作る。</p>	26		<p>■⑳㉑上北アクティビティ・ブラッシュアップ事業(上北地域県民局)</p> <p>■㉒㉓選ばれる青森誘客促進事業(観光国際戦略局)</p> <p>■㉔情報発信強化による青森ファン拡大事業(観光国際戦略局)</p> <p>■㉕あおもり型農泊確立推進事業(農林水産部)</p>
33	「らしさ」を磨こう	<p>近年の旅行商品はターゲットを意識した商品開発やプロモーションが必要。リピーターとして囲い込みを図るためには個人や小グループのニーズ喚起が必要であり、各地域らしさを磨いていく必要がある。</p> <p>県民性を平準化しないよう、いい意味での「笑える対決」や、健康食材の方向である本県が総力をあげたヘルスマニューなどにより国内外へアピールできる。</p> <p>そのほか、土地の雰囲気を感じてもらおうための古民家の活用及びネットワーク化も重要なポイント。</p> <p>これらのプロモーションには、青森県と縁が深い人々(作家や文化人等)を活用すべき。</p>	26		
34	MY FIRST AOMORI&HAKODATE ～初めて訪れる外国人にも日本人にも満足してもらえる「鉄板」コースの設定～	<p>定番メニューの決定に際しては、①ビュースポット(観光地)、②温泉、③食べ物の3つのカテゴリーの素材を抽出し、それらの素材に対して「難易度」を付与する(「定番」「中レベル」「ハイレベル」)。このうち、「定番」の素材を集めたコースを作成し、パッケージ商品として造成し、簡単に購入できるようにする。</p> <p>パッケージ化することで、特に外国人については、個別の手配が不要になり、利便性が向上。</p> <p>コースの設定にあたっては、これらの素材を結ぶ二次交通の整備、観光素材の旅行商品、素材化等の作業が必要。</p>	26		<p>■㉖㉗「魅せる中南津軽」発信力強化事業(中南地域県民局)</p> <p>■㉘青函エリア情報発信強化事業(観光国際戦略局)</p>

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
35	津軽海峡でJAPAN!	函館イン・アウトの周遊プランを作り、外国人旅行者のエリア内の長期滞在を目指す。観光プランイメージは、奥津軽いまべつ駅をスタートとし、「ちょっぴり青森(日帰り)」「じっくり青森(1~2泊)」「とことん青森(1週間)」の3つのプランを用意。リアルな日本文化を体験できる素材は、祭や工芸品、食体験、交流、ショッピングなどが考えられる。	26	<ul style="list-style-type: none"> ■平成27年度、中国向けメディアの取材コーディネート・アテンド 「明日どこ行くの?ねぶた祭り編」 ■平成30年4月～、津軽海峡エリアにおける地域の観光流動化促進事業の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ■③青函エリア情報発信強化事業(観光国際戦略局)
36	津軽海峡で生物境界線を感じよう	津軽海峡を東西に横切る「ブラキストン線」により、青森県を北限とする種や北海道を南限とする種がある中で、長野県山ノ内町にある「地獄谷野猿公苑」では猿が温泉に入る姿が外国人観光客に人気であることから、これを手本に、むつ市の「野猿公苑」などに新たな演出による感動できる仕組みづくりを行うとともに、青森県と北海道の異なる種を比較する周遊型ツアーの造成、津軽海峡を渡る鳥類を観察するツアーの実施、生物のドラマに着眼した情報発信・商品造成を行い、青函地域の一体感の醸成と交流人口拡大を図る。	26		

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
37	奥津軽 明日はひとつになるう！	<p>青森ひば林及び森林鉄道軌道跡を活用し、奥津軽トレイルを具現化する。ルート開発の上で、ガイド養成、二次交通の整備、プラットフォームといった受入体制を整備していく。</p> <p>ノルディックウォーク、クアオルトを滞在交流プログラムとして取り入れ、健康をテーマとしたコースの充実、情報発信とともに、農家・漁家レストランや民宿などの整備により滞在時間を延長できる体制にする。</p> <p>また、商店街の空き店舗活用、古民家再生などの受入の仕組みづくりやおみやげ品の開発を進めるとともに、既存の観光施設等との連携による滞在型観光を目指す。将来的には、廃校などの活用や若手のビジネス起業などのサポートを行うなど、単なる観光ではなく、観光による地域づくりを推進し、奥津軽全域の活性化を図っていく。</p>	26	<p>■平成25年度、「奥津軽トレイル」ルートの開発と受入体制の整備、及び観光商品(特産品)開発を実施。</p> <p>■平成26～28年度、下北・津軽・檜山のひば連携。</p> <p>■平成27年度、「奥津軽トレイル」のコース拡充に向けて受入体制準備。</p> <p>■平成28年度、「奥津軽トレイル」3本(歩行距離約34キロ)から8本(約117キロ)に拡充。</p> <p>■平成27年・28年度、下北(H27)・津軽半島(H28)自然体験コーディネーター育成塾において、自然体験プログラムを開発。</p> <p>■平成30年8月24日、我が国初の森林鉄道「津軽森林鉄道」遺構群及び関係資料群「林業遺産」選定記念シンポジウム開催。</p> <p>■平成30年9月～平成31年2月、「奥津軽ウェルネス博」の開催。</p> <p>■平成30年4月～、金木町農泊推進プロジェクトの実施。</p>	<p>■平成30年度ヘルスケアサービスビジネスモデル実証事業</p> <p>■⑪津軽森林鉄道魅力発信事業(西北地域県民局)</p>
38	奥津軽いまべつ駅に降りたくなるわけをみんなで妄想・実現しよう！	<p>奥津軽いまべつ駅の見晴らしの良さを活かして、駅に降りたくなるような動機づけをする。</p> <p>例えば、田舎館村の田んぼアートについて技術指導や応援を仰ぎながら、駅から見えるところに田んぼアートを完成させ、将来的には田舎館村との周遊コースを組む。その他、お米を駅利用者配布したり、期間限定でお弁当販売するなど、ブランドをフル活用する。</p> <p>この他、「いまべつ牛」を提供できる体制の整備や、レンタサイクルを利用したサイクリングコース、駅から出発する津軽半島の周遊バスなど、地域住民が妄想を共有し、実現に向けた方策を考えるためのワークショップを開催する。</p>	26		

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
39	自由自在、青森の自然満喫！	青森の財産である自然を楽しむため、歩き、サイクリング、ローカル列車など自由に散策できる魅力をアピールする。 それに付随した地域限定の食の提供、おみやげ品の紹介や、健康に関心がある人へのノルディックウォークに関する対応等を行う。 コースの途中にはその地域の名称や由来などの案内板表示をする。 「みちのく潮風トレイル」「奥津軽トレイル」「弘前路地裏探偵団」など有名なもの以外も掘り起こす。	26	<ul style="list-style-type: none"> ■平成27年・28年度、下北(H27)・津軽半島(H28)自然体験コーディネーター育成塾において、自然体験プログラムを開発。 ■平成30年8月24日、我が国初の森林鉄道「津軽森林鉄道」遺構群及び関係資料群「林業遺産」選定記念シンポジウム開催。 ■平成30年9月～平成31年2月、「奥津軽ウェルネス博」の開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ■③④世界自然遺産「ビジット白神山地」プロジェクト事業(環境生活部) ■平成30年度ヘルスケアサービスビジネスモデル実証事業
40	フェリーの積極的活用	新幹線だけでなく、大間・函館航路、蟹田・脇野沢航路のフェリーを組み合わせたルートを積極的に周知していく。	25	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29年度、青森公立大学生が津軽海峡フェリー利用者対象に函館・下北観光アンケートを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ■⑥下北「海の道」の魅力発信事業(下北地域県民局) ■⑥⑦台湾から来さいまい下北推進事業(下北地域県民局) ■⑧⑨航路でつながる津軽海峡交流圏周遊促進事業(企画政策部) ■⑩⑪蟹田・脇野沢航路利用促進による津軽海峡交流圏周遊促進事業(企画政策部)
41	青森県と道南との交通機関等の連携	レンタカーの青森・道南のまたがり利用、乗り捨て可能商品の設定や、青森から函館にまたがる周遊バスなどを運行する。	25	<ul style="list-style-type: none"> ■平成29年度、青森港フェリーターミナルと主要観光地や大学などを結ぶタクシー料金の運賃割引サービス開始。 ■平成29年度、青い森鉄道と津軽海峡フェリーによる企画切符「海峡ゆったどきっぷ」の発売。 ■平成30年4月～、津軽海峡フェリーが、青函の乗客対象のレンタカーとセットにした割引プランを販売。 	

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
42	マグロ女子バトル勃発	「津軽海峡マグロ女子会プロデュース 大間・函館・松前・津軽の女の戦い、超～おもてなしバトル」を行う。	25	<p>■平成26年度、「津軽海峡マグロ女子会」が発足。</p> <p>■平成28年度発表、青函の味「駅弁」をマグロ女子会が開発。</p> <p>■平成28年度、「マグ女のセイカン♡博覧会」青函DCスペシャルの先行開催。</p> <p>■平成28年度、DC終了後の閑散期を盛り上げるため、「津軽海峡マグロ女子会セイカン博覧会」を開催。</p> <p>■平成29年度、「マグ女のセイカン♡博覧会」開催。</p> <p>■平成29年度、マグ女に続く女性たちの町おこし団体の誕生。</p> <p>■平成29年度、「第9回観光庁長官表彰」及び「女性のチャレンジ賞」の受賞。</p> <p>■平成30年4月14日～、東奥日報の夕刊に地域活性化エッセーを定期掲載。</p> <p>■平成30年6月5日、観光庁の「観光地域づくり事例集」でマグロ女子会の取組を紹介。</p> <p>■平成30年9月15日～11月30日、第3回目「マグ女のセイカン♡博覧会」を開催。</p> <p>■令和元年9月1日～11月30日、「マグ女のセイカン♡博覧会2019」を開催。</p>	<p>■平成27年度、青森県と北海道の共同事業として、木古内町及び青森市にて、青森県と道南地域のご当地グルメ・方言・ゆるキャラなど、それぞれの魅力をバトル形式でPRし、聴衆に判定してもらいイベントを開催。</p>

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
43	津軽・下北半島満喫女子グルメライド	津軽、下北の両半島をめぐる女性を対象としたグルメライドのイベントを定期的に行う。	25	■平成26年度、青森県サイクル・ツーリズム推進協議会を設立。	■②⑥青函サイクル・ツーリズム魅力発信事業(観光国際戦略局) ■②⑦②⑧青函圏サイクル・ツーリズム推進事業(観光国際戦略局)
44	地元民と交流できるマッチングサイトづくり	地元の人と旅行者が交流できるマッチングサイトをつくり、体験した人達が感想などを共有する仕組みをつくる。	25		
45	津軽海峡交流圏をエリアとした情報誌の制作	津軽海峡交流圏を一つのエリアとして紹介するよう、旅行情報誌の出版社等に働きかける。	25	■平成26年度、「街あるきガイドひろさき2014」に函館の情報を掲載。	■②⑧②⑨東アジア・東南アジア向け青函情報発信事業(観光国際戦略局)
46	奥津軽いまべつ駅を降りた人を徹底的におもてなし	奥津軽いまべつ駅で降りた人に対し、他の地域にはない話題性のあるおもてなし(スタンディングオベーションをする、レッドカーペットを引く等)を行う。	25		■②⑥②⑦観光おもてなしブラッシュアップ事業(観光国際戦略局)
47	自然を生かした遊びづくり	トレッキング、漁獲体験、川遊びなど、本県ならではの自然を生かした遊びをつくる。	25	■平成26年度、廃校の建物を活用してオープンした「お山のおもしろ学校」で、学校周辺での定期トレッキング(月2回)をはじめ、夏限定の南八甲田キャニオニングプログラム(7月～9月)といった自然体験プログラムを取り扱っている。 ■平成26年度、マタギをテーマとした資料館をオープン。	■②⑥上磯地域のグリーン・ブルー・ツーリズム促進支援事業(東青地域県民局) ■②⑥②⑦体感する小川原湖推進事業(上北地域県民局) ■②⑨③⑩東青地域冬季観光育成事業(東青地域県民局)

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
48	どれがお好み？食のコース対決	県内で獲れるマグロ(大間、深浦、三厩)やウニ(平館、佐井、階上)等の特徴(旬、味、漁獲方法の違い等)を整理するとともに、駅などの起点から食べるまでの魅力的な見どころ、体験を組み込んだコースを設定し、充実度合いを競い合う。	25		<p>■②⑥⑦北海道新幹線「奥津軽駅」開業効果に向けた観光拠点化モデル事業(東青地域県民局)</p> <p>■平成26年度～、道の駅たいらだて「Oh!だいは」周辺散策マップ配布(外ヶ浜町)</p>
49	看板だけの美術館	絶景ポイントをそれぞれ一つの作品と考え、名所に絵画の額を付けた看板を設置し、空間自体を一つの美術館と見立てる「自然美術館」をつくる。美術館めぐり＝観光地めぐりとなるよう、周遊する動機付けを行う。	25		
50	+1運動	商品を販売する際には必ず一言説明を添えるなど、消費者の納得性を高める取組を推進する。 例えば、シジミの産地として有名なみちの駅ではバスに同乗して十三湖周辺を案内しながら魅力を語るなど、地元案内人によるご当地PRなどを実施している。	25		
51	個人移動者をターゲットとした代表的なルートの作成	主要ターゲットとすべき個人移動者をターゲットとした代表的な(軸となる)青森めぐりルートを作成し、徹底的に紹介する。	25		<p>■②⑥⑦北海道新幹線「奥津軽駅」開業に向けた戦略展開事業(東青地域県民局)</p> <p>■②⑥⑦北海道新幹線開業に向けた津軽半島北部エリア観光推進事業(西北地域県民局)</p>
52	津軽V.S南部にそろそろ決着・綱引き大合戦	津軽藩と南部藩の藩境(野辺地)で、両地域の住民による綱引きイベントを実施する。(下北が審判)	25		
53	交通アクセスの不便さを楽しみに変える仕掛け	交通アクセスが悪い、不便であるということを秘境度「☆」で表すなど予め不便であるということをパンフレット等に表示する。 また、交通アクセスが不便で行きにくいが見るべきもの、素晴らしいスポットなどを挙げたパンフレットを制作し、「スゴイ青森」をPRする。	25		

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
54	鉄道路線毎の体験プログラムの作成・商品化	鉄道路線毎に、運行ダイヤを生かした体験プログラム(食、温泉、屋形船、産直列車など)をつくり、商品化につなげる。 (例)県外、首都圏からの来訪者、県内住民が他のエリアを訪れたいくなるような商品づくりや、新幹線の3駅を起点に二次交通を含めた体験プログラムの商品化など	25	■平成25年度、青い森鉄道のプロモーションを実施。	■②⑤⑥青い森鉄道新需要創造事業(企画政策部) ■②⑦⑧青い森鉄道が運ぶ沿線魅力戦略事業(企画政策部)
55	100人のよそ者による地元の気づきおこし	地元にとって当たり前になっている資源の掘りおこしのため、よそ者を100人長期滞在させるという他の地域でやったことのないアクションをおこす。そのアクションをシンポジウムや地元メディアなどで取り上げてもらい、地元の人々の気づきを促し、商品化につなげる。	25		
56	バス、タクシー、レンタカーを利用しやすくする	県内の駅前のタクシー乗り場に主要観光地への料金の目安を表示する、主要観光地へのシャトルバス(又はミニ循環バス)の運行、行き先方面別に記号表示するなど、利用者が安心して乗車できる環境を整備する。 レンタカーを利用しやすくするための営業所一覧(大手・個人)をマップ化する。	25		■②⑥⑦奥津軽いまべつ駅二次交通等整備促進事業(企画政策部) ■②⑧⑨奥津軽いまべつ駅二次交通運行・利用促進事業(企画政策部) ■③⑩⑪奥津軽いまべつ駅利用促進等事業(企画政策部) ■③⑩⑪アプリを活用した空港二次交通強化事業(企画政策部) ■平成24年度～、七戸十和田奥入瀬シャトルバス運行事業(十和田市、七戸町)
57	レンタサイクルの充実	GPS搭載自転車ナビチャリ、電動アシスト自転車などの貸し出しや、乗り捨て型広域レンタサイクルの導入などにより、自転車を利用しやすい環境をつくる。	25		■平成25年度～、種差海岸らくらくサイクル事業(八戸市)

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
58	古民家活用による宿泊場所の拡大	空き家や古民家など既存の不動産を活用し、「暮らすように宿泊できる」新しいタイプの宿泊場所を創出する。 また、地元の方とのふれあいや田舎体験プログラムなど立地を生かしたオプションを設定し、充実した滞在時間を提供する。	25	■平成30年4月～、金木町農泊推進プロジェクトの実施。	
59	県民参加型CM映像等の制作	東北新幹線への感謝と北海道新幹線への歓迎の気持ちを県民が表現する映像を撮影し、公表する。	25		
60	青森県版三都物語の提案	青森、弘前、八戸を三都物語(神戸、京都、大阪)に見立て、「〇〇をしに行くなら〇〇に行こう」というイメージを定着させる。 例えば、食や美容、健康などテーマ毎に3都市をめぐるコースづくりを行い、3都市のイメージをクローズアップするなどし、戦略的な打ち出し方をする。	25		■平成25年度～青函圏観光都市会議(青森市、弘前市、八戸市、函館市)の開催。
61	作家や文化人を活用した情報発信	文化人などを複数人リレー方式で招いて青森県内を案内し、メディアにとりあげてもらおう。	25		■平成30年3月、青森県に関心を持つ文化人を青森県に招き、青森県の文学ゆかりの地を巡り、その旅の様子をWEBで公開する情報発信企画を実施。
■産業・雇用分野(観光以外)					
NEW 62	津軽海峡交流圏 伝統芸能交流の深化(による、地域産業活性化)	津軽、下北、江差で輪番開催した伝統芸能交流をさらに深化させ、発表の場を広げたい。	31	■平成29年10月14日、「津軽海峡交流圏郷土芸能祭」を江差で初開催。 ■平成30年10月6日、「第2回津軽海峡交流圏郷土芸能祭」を金木町で開催。 ■令和元年6月30日、「第3回津軽海峡交流圏郷土芸能祭」を佐井村で開催。	

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
NEW 63	県外海外へ届け。ロコミとかSNSとか、委員の個人力でPR大作戦～マギユロウはどこまで一人泳ぎさせられるか～	<p>【目的】 津軽海峡交流圏の理解を図る。県内でのマギユロウの認知は、各種イベントと委員各人の尽力により一定の成果を収めつつあります。次のステージとして、これまでやってきたPR活動の輪を県外や海外に拡大したいと考えています。とはいえ、本格的なPRIには予算が追いつかないので、委員の皆さんそれぞれの額に汗するPR活動をニュースに取り上げていただき、委員自体の活動が話題になることで津軽海峡交流圏にスポットを当てる試みをしてはどうかと考えています。</p> <p>【委員の役割】 マギユロウを県内はもちろんですが、県外、海外の人の目に触れさせる活動を、チームで、あるいはそれぞれ、できる範囲で、できるだけお金をかけずにPRする。</p> <p>【具体的な活動例】 ① マギユロウ人形をあちこちへ連れて行って、その際の写真を個人のSNSで紹介する。 ② 新年の初セリ。すしざんまいの木村さんが最高額で競り落とした大間のマグロのポディーにマギユロウのシールを貼ってもらう活動をする。 ③ 友人のホームページ内にマギユロウのサイトへ誘導するバナーを貼ってもらう活動をする。 ④ 自分がNHKの日曜日ののど自慢に出場する際にはマギユロウのTシャツを着用する。</p>	31	<p>■平成30年度、首都圏産直市(立川駅、上野駅、大宮駅)における「マギユロウ」を活用した情報発信</p>	<p>■①津軽海峡交流圏形成促進事業(企画政策部)</p>
NEW 64	津軽海峡圏ヒト・コト発掘・発信	<p>地域に埋もれているヒトや活動の掘り起こし。 更には、そのヒトやコトを津軽海峡圏につなぎ圏外にも発信する。</p>	31		
65	津軽海峡ブランド価値向上作戦	<p>津軽海峡交流圏の「何もない」ようなイメージを払拭し、津軽海峡交流圏を促進するために「津軽海峡」に夢やあこがれを感じるイメージを作り(売るべきイメージを統一)、「穏やかな春」や「人の暮らしを感じる」ようなイメージに沿った津軽海峡ソングを作り、イメージの浸透を図る。</p>	30		<p>■①誇りと共感の醸成による青森ブランド形成事業(企画政策部)</p>
66	“津軽海峡”地域カテゴリー・ブランドの確立	<p>「北海道」と「東北」の間に「津軽海峡」地域というカテゴリーを確立させるために、合同のアンテナショップの設置や旅行会社に働きかけるなど、この圏域のイメージを創造する。</p>	29	<p>■平成30年4月～、津軽海峡エリアにおける地域の観光流動化促進事業の推進。</p>	
67	AOMORI HIBAブランドを牽引する新たなヒバ材を使った商品を世界へ！ ～津軽海峡圏を青森ひばまるごとミュージアムに！～	<p>青森ひばと伝統技術や著名な海外ブランドとのコラボレーションなどによりストーリー性のある青森ひばブランドづくりを進め、津軽海峡交流圏全体を青森ひばミュージアムとする。</p>	28		

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
68	新幹線に乗っちゃって、在来線にも乗っちゃって！	鉄道の旅に詳しい人をコンシェルジュに任命し、鉄道の旅の魅力をわかりやすく紹介してもらうとともに、「学生発ラムダ駅弁(仮称)」開発などで、青森県の魅力を再発見するための在来線を切り口とした鉄道の活用を行う。	28		■②⑨③⑩青い森鉄道の新たなユーザー獲得事業(企画政策部)
69	青森県内を自分のオフィス代わりに！ ～移住でも観光でも企業誘致でもない誘客作戦～	首都圏の人の時間と距離の感覚を最大限に生かすとともに、青森県の最高の環境の中でクリエイティブな仕事をしてもらう場づくりを行う。	28		
70	待ってるだけじゃ物足りない！友好都市の大連の富裕層にPR/販促イベント企画	中国大連の富裕層に向けたPR企画等により、大連市との経済交流を活発にしていく。	28		
71	ショートムービー「ヒバの樹海」の制作・配信	北海道新幹線の沿線である津軽半島、道南地域や下北半島にはヒバが多く生息していることから、ヒバの特性を青森に生きる人と重ね、その魅力を引き出すようなショートムービーを作成し、沿線からは見えない自然の美しさをPRするとともに、自然も新幹線の沿線で繋がっているということを青森と道南で生活する人に認識してもらう。	27		
72	津軽海峡といえば、マグロだべさ。マグロで徹底バトル！	圏域内のマグロ産地で、料理法や見せ方を目玉に集客を競う「津軽海峡M1グランプリ」の開催や、漁師たちのマグロ処理法や生きざまなどを競うドキュメント番組への売り込み、加工品・手土産品のコンテスト、おもてなし力を競う「マグロ女子」、キャラクター対決などを行う。	26	<p>■平成25年度、「青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 公開ナマ作戦会議～北海道新幹線開業まであと2年～津軽海峡交流圏を盛り上げよう！」を青森市内で開催。</p> <p>■平成26年度、「津軽海峡交流圏公開生バトルIN函館」を函館市内で開催。</p> <p>■平成28年度、「新幹線に乗っちゃって！」青函DC盛り上げバージョン動画の公開。</p>	<p>■平成27年度、青森県と北海道の共同事業として、木古内町及び青森市にて、青森県と道南地域のご当地グルメ・方言・ゆるキャラなど、それぞれの魅力をバトル形式でPRし、聴衆に判定してもらうイベントを開催。</p>

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
73	函青(感性)を活かした海峡ブランド商品づくり	<p>連携による商品開発のイメージとしては、食品・お酒などを中心とした商品開発、地域の有名店などを巻き込んだコラボ商品の開発、産業技術センターの強みを活かした異業種コラボ、ブランド認定基準の作成、マッチング会などの開催が考えられる。また、連携による商品開発の支援として、ビジネスプランコンテストの開催や金融機関連携を活かした企業支援などが考えられる。これらの商品は北海道新幹線限定商品としてプレミアム感を出したり、津軽海峡を渡るフェリーで船上見本市を開催し、展示販売を行う。</p>	26	<p>■平成24年度～、青森商工会議所・函館商工会議所による「パートナーシップ構築懇談会」開催。 ■平成26年度、函館大学、函館商業高等学校、青森商業高等学校による土産品開発に向けたワークショップを開催。 ■平成26年度、DATE男爵倶楽部HOTEL&RESORTS(函館市)が白神酒造(弘前市)と共同開発した日本酒を発売。 ■平成26年度、ウィーン菓子シュトラウス(青森市)が青函のコラボ商品として、青森市名産のカシスと北海道乳業(函館市)のクリームチーズを組み合わせた「カシスガレット」などを販売。 ■平成28年度、函館市と弘前市の友好の酒「巴桜」の誕生。</p>	
74	津軽海峡交流圏のシンボルは何？	<p>津軽海峡交流圏のシンボルとなる資源は各地域県民局にかなりのレベルで深掘りしたものと考えられることから、それをたたき台にして現状に照らし合わせて絞り込む。 ブラキストン・ライン(津軽海峡線)を前面に出し、動植物だけではなくヒト・モノ・文化で津軽海峡交流圏地図を作成する。</p>	26		
75	“青森流遊び心＝青森流幸福論”による観光と物づくり:青森ひばの森と生きる	<p>①ひばの森林を舞台とする遊び(トレッキング、森林鉄道廃線跡探訪など)の開発と旅行商品化…現在進行中の取組から派生するバリエーションや新規アイデアで旅行商品化するとともに、専門サイトの立ち上げやファミトリップの実施などによるプロモーション、広域的観光団体へのひば専門担当の設置等を行う。 ②ひばの森とともに暮らしてきた津軽半島(下北半島)の人々との生活体験機会の提供…農家民泊、空き家活用により宿泊施設を拡充し、交流機会を創出する。また、農家カフェ・レストランなどでの異文化交流体験等を通じたひばへの興味を喚起する。 ③ひばを素材にした物づくり…商品開発を研究するための施設を設立し、Co-Creationをテーマとしたクリエイティブ空間を創り出す。県外企業の研究開発部門のサテライトオフィス誘致も、この施設を中心に進める。</p>	26	<p>■平成30年4月～、金木町農泊推進プロジェクトの実施。</p>	

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
76	海峡に着目したイベントの推進	津軽海峡を取り囲んだ一つの圏域としての一体感を持たせ、景観、食、歴史文化の個性や魅力を集約する。(海峡を挟んだ半島、岬等のパノラマ景観、釣りレジャー、海草などの健康食品など)	25	■平成26年度、「あおり×はこだてマルシェ」が開催された。津軽海峡フェリーの企画で、青森と函館のつながりの輪を広げることを目的にA-FACTORYで開催。	
77	津軽海峡交流圏の地図の制作	本県と道南を中心とした地図を制作する。 例えば、上下左右のない円形の地図、時間距離(連絡船時代、新幹線開通後、将来)でデフォルメした地図などを制作する。また、地元住民や子ども達に津軽海峡交流圏を描いてもらう北海道との共同コンテストを開催するなど、地図をきっかけとして、様々な世代に津軽海峡交流圏を認知させる。	25		■②⑥北海道新幹線「奥津軽駅」開業プロモーション事業(企画政策部)
78	奥津軽いまべつ駅を「みんなの駅」にする仕掛け	奥津軽いまべつ駅周辺で、産直、町内会ミーティング、イベント等を定期的で開催するなど地域住民の活動拠点とするほか、奥津軽いまべつ駅周辺施設の一口オーナー制度等を実施するなど、奥津軽いまべつ駅に関与する人を増やす仕掛けをする。また、コミュニティレストランや郷土料理教室など、来訪者も活動に参加できるような場づくりを行う。	25	■平成26年度、奥津軽いまべつ駅の知名度アップを図るため、「駅からサイクリング」お試ツアーを開催。 ■平成28年度、北海道新幹線奥津軽いまべつ駅開業記念第一回奥津軽周遊ライドの開催。 ■平成28年度～、青森県と道南の将棋愛好家による北海道新幹線開業記念将棋大会の開催。	■②⑥北海道新幹線「奥津軽駅」開業プロモーション事業(企画政策部) ■②⑦北海道新幹線開業カウントダウン事業(企画政策部)
79	子ども向けテレビ番組の制作(イカール星人VSマギョロウ)	子ども向けのテレビ番組を制作し、道南と青森県で放送する。また、その登場キャラクター数種類を圏域内に出没させる。	25		
80	海峡ソングの制作～津軽海峡・冬景色に続け	観光スポットを取り入れたご当地ソングを著名人に作詞・作曲してもらい、歌ってもらう。	25		

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
81	ラムダシンボルマークの制作	ラムダプロジェクトのシンボルマークなどをつくり、広報媒体などで活動をアピールする。 (例)地元を連想させるような(ブナ加工品、こぎん刺しなど伝統工芸を使用)アート性の高いものから、海外版エンブレム風のものまで、多様な値段・風合いのシンボルバッチを制作し、住民にも普及させる。	25	<ul style="list-style-type: none"> ■平成26年度、λ(ラムダ)プロジェクトを進め、盛り上げていくためのシンボルキャラクターとして「マギユロウ」を誕生させた。 ■平成30年9月6日、県立浪岡高等学校の空き缶壁画に「マギユロウ」登場。 	<ul style="list-style-type: none"> ■②⑥北海道新幹線「奥津軽駅」開業プロモーション事業(企画政策部)
82	船上アウトレットモールの開発	青森・函館を往復するアウトレットショップ満載のフェリーを開発する。	25		
83	奥津軽いまべつ駅の名物づくり	JR九州折尾駅の弁当の立ち売りやJR北海道の函館本線のそば、イカめしの予約販売のように、奥津軽いまべつ駅でしか買えない弁当等を販売するなど、演出も含めた奥津軽いまべつ駅の名物をつくる。 (例)地元食材をふんだんに使用した個数限定、予約制の温かい駅弁など地元住民の昼食としても愛される弁当や、別府駅の「民子の夢弁当」、嘉例川駅の「嘉例川駅弁当」などのような幻の弁当など	25		
84	青森ひばで感動づくり	薬効成分を多く含み、本県の歴史や文化を育んだとも言える「青森ひば」をキーワードとしたコンテンツをつくる。	25	<ul style="list-style-type: none"> ■平成25年度「奥津軽トレイル」の開発、受入体制の整備、及び観光商品(特産品)開発を実施。 ■平成26年度、県産ひば材を使った青い森鉄道のキャラクター・モーリーグッズを作成。 ■平成26年度、「ひば」サミットの開催による下北・津軽・檜山におけるひばの連携。 ■平成30年8月24日、我が国初の森林鉄道「津軽森林鉄道」遺構群及び関係資料群「林業遺産」選定記念シンポジウム開催。 ■平成30年9月～平成31年2月、「奥津軽ウェルネス博」の開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ■平成30年度ヘルスケアサービスビジネスモデル実証事業

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
85	ターゲットを意識した商品開発、プロモーション	地域、年齢、性別などターゲットを意識した商品開発、プロモーションを行う。	25	<p>■平成25年度、JR東日本として青函の旅行商品を造成。</p> <p>■平成26年度、漁業、農業者とのコラボによる体験ツアー、屋形船で八戸の食、夜景を堪能するツアー、鉄道を活用した体験プログラムによる着地型体験ツアー等を造成。</p>	<p>■②⑤②⑥青函広域観光推進事業(観光国際戦略局)</p> <p>■②⑤②⑥道南地域からの上北地域誘客促進事業(上北地域県民局)</p> <p>■②⑥②⑦青函連携「食と観光」タイアップキャンペーン事業(農林水産部)</p> <p>■②⑥②⑦観光マインドアップ事業(観光国際戦略局)</p> <p>■②⑥②⑦青森県・函館誘客促進プロモーション事業(観光国際戦略局)</p> <p>■②⑥②⑦東アジア・ASEAN向け情報番組制作事業(観光国際戦略局)</p> <p>■②⑥②⑦アレコ青函ソウル共感力創造事業(観光国際戦略局)</p> <p>■②⑦②⑧青森県・函館Destinyネーションキャンペーン推進事業(観光国際戦略局)</p> <p>■②⑦②⑧青函広域観光連携事業(観光国際戦略局)</p> <p>■②⑦②⑧グリーン・ツーリズム新規需要創出事業(農林水産部)</p> <p>■②⑧②⑦東南アジア誘客促進事業(観光国際戦略局)</p> <p>■②⑧②⑨青函エリア食のプロモーション推進事業(農林水産部)</p> <p>■②⑨③⑩青森ならではのグリーン・ツーリズム確立事業(農林水産部)</p> <p>■②⑨③⑩選ばれるあおもりサイクリング推進事業(観光国際戦略局)</p>

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
85	ターゲットを意識した商品開発、プロモーション	地域、年齢、性別などターゲットを意識した商品開発、プロモーションを行う。	25	<p>■平成25年度、JR東日本として青函の旅行商品を造成。</p> <p>■平成26年度、漁業、農業者とのコラボによる体験ツアー、屋形船で八戸の食、夜景を堪能するツアー、鉄道を利活用した体験プログラムによる着地型体験ツアー等を造成。</p>	<p>■②⑨③⑩青函周遊観光定着化推進事業(観光国際戦略局)</p> <p>■②⑨③⑩タイ誘客対策強化事業(観光国際戦略局)</p> <p>■③⑩③①下北地域観光滞在拡大事業(観光国際戦略局)</p> <p>■③⑩③①国内誘客強化事業(観光国際戦略局)</p> <p>■③⑩③①西北の食ツーリズム誘客促進事業(西北地域県民局)</p> <p>■③⑩世界に選ばれる十和田湖奥入瀬ツーリズム推進事業(上北地域県民局)</p> <p>■③⑩③①下北観光滞在推進事業(下北地域県民局)</p> <p>■③①地域交通等活用周遊観光促進事業(企画政策部)</p> <p>■③①青函周遊観光定着化事業(観光国際戦略局)</p> <p>■③①宿泊旅行者獲得推進事業(観光国際戦略局)</p> <p>■③①地域交通等活用周遊観光促進事業(観光国際戦略局)</p> <p>■平成25年度～、旅行エージェントへのプロモーション(三沢市)</p>
86	ザ・ご当地グルメ100プロジェクト2020	郷土料理を生まれた背景を含めて整理するとともに、新ご当地グルメを開発するなど、食の魅力の創造に注力する。	25	■平成27年度、青森県の新・ご当地グルメがデビュー。	
87	青森らしさを整理するためのポテンシャルブックの作成	自然、縄文遺跡、北前船、エネルギー、医療機関、大学等高等教育機関、食、方言などの地域の特徴を分析し、青森らしさを整理するためのポテンシャルブックを作成する。	25		■②⑥「あおりポテンシャルビュー」構築事業(企画政策部)
88	雪プロジェクトの推進	毎冬、豪雪が全国メディアに取り上げることを利用して、青森の雪成分の優位性(雑味が少ない、湿度が高いなど)を分析し、雪の利活用を積極的に行う。	25		■②⑧②⑦雪を逆手に冬を楽しむ中南観光推進事業
89	クルージング等の商品開発	夕方発翌朝到着の船(船上パーティ、船上カジノ)で交流圏を行き来する。	25		

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
■安全・安心、健康分野					
NEW 90	津軽海峡交流圏 ヘルスツーリズムの展開	津軽海峡交流圏の各地でヘルスツーリズムを新たな地域産業として展開する。	31	<ul style="list-style-type: none"> ■平成25年度、「奥津軽トレイル」ルートの開発と受入体制の整備、及び観光商品(特産品)開発を実施。 ■平成26～28年度、下北・津軽・檜山のひば連携。 ■平成27年度、「奥津軽トレイル」のコース拡充に向けて受入体制準備。 ■平成28年度、「奥津軽トレイル」3本(歩行距離約34キロ)から8本(約117キロ)に拡充。 ■平成27年・28年度、下北(H27)・津軽半島(H28)自然体験コーディネーター育成塾において、自然体験プログラムを開発。 ■平成30年8月24日、我が国初の森林鉄道「津軽森林鉄道」遺構群及び関係資料群「林業遺産」選定記念シンポジウム開催。 ■平成30年9月～平成31年2月、「奥津軽ウェルネス博」の開催。 ■平成30年9月28日・29日、ヘルスツーリズムプログラム認証によるヘルスケアビジネスの推進。 	■平成30年度ヘルスケアサービスビジネスモデル実証事業
91	これぞ青森！ 青空に近づこうプロジェクト	<p>指定するエリア全体をブランド化し、そのエリア内では健康的な環境の提供、運動、食を通して意識向上を図ることができるライフスタイルを用意する。</p> <p>地域住民の健康リテラシーの向上を図ることにより、エリア内での生活・体験が健康リテラシーの向上、健康・美容効果につながっていく。</p> <p>このモデルが県内全域に波及し、エリアごとに特色のある健康ライフスタイルにつなげる。</p>	27	■平成27年度、種差海岸などでの着地型体験ツアーを実施。	

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
92	県内医療機関への先進医療機器の導入	全国にも数少ない先進医療施設は、その所在地に関わらず全国の患者に求められるものであり、青森県に先進医療機器を導入することは、その治療を求める患者や家族を全国から迎えることができる。 また、先進医療機器の導入により、県を訪れる人員の増加だけでなく、健康長寿をめざす青森県にとっても有意義と考える。	27		
93	クアオルト(健康保養地)づくり 「青森の自然・温泉・食」※「最新ドイツ式ウォーキング」※「健康保養地としての地域づくり」	ドイツにおける「クアオルト(療養地・健康保養地)」を先進事例とし、国民の健康志向を受け止める高品質な長期滞在の仕組みを有する地域となる。 活用する地域資源は青森県が要する豊富な森林、三方を海に囲まれ中心部に山地を抱く地形、温泉と陶磁文化、冷涼な気候、清涼な空気、ミネラル分を豊富に含む風、新鮮で豊富な地元食材。また、森林セラピストなどで構成されるガイド組織「あおもりクア(健康)ガイド協会」。 上記地域資源を最新ドイツ式健康ウォーキングとしてプログラム化するとともに、必要な施設整備を各地に行う。	26	<ul style="list-style-type: none"> ■平成27年・28年度、下北(H27)・津軽半島(H28)自然体験コーディネーター育成塾において、自然体験プログラムを開発。 ■平成30年8月24日、我が国初の森林鉄道「津軽森林鉄道」遺構群及び関係資料群「林業遺産」選定記念シンポジウム開催。 ■平成30年9月～平成31年2月、「奥津軽ウェルネス博」の開催。 	■平成30年度ヘルスケアサービスビジネスモデル実証事業
94	今は短命県だけど！もっと健康になれる青森！	豊富にある健康増進ファクター(豊富な自然、高い食料自給率など)を活かし、県内外にアピールする。 また、身近な温泉を活用し、安価で利用できる温泉施設をアピールするとともに、医学的基盤に基づく健康増進、リラクゼーションに有効な療養・保養プログラムを提供する健康保養地として整理する。 さらに、県内のバリアフリーを進め、高齢者・障害者の移動や観光施設を整えることにより、県民のQOL向上、生きがいづくりのきっかけ、交流人口の増加、滞在時間の拡大を図る。	26		
95	国際競技大会の開催(トライアスロンなど)	津軽海峡を挟んだ両地域で、体力を競うトライアスロンのような国際的な競技を行う。実施の際は、沿道や海上から大漁旗で応援するなど、インパクトのあるもてなしを展開する。まずは、市民マラソンでも良い。	25		

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
96	クアオルト(健康保養地)づくり	<p>森林、海、温泉、湯治文化、食などを生かした医科学的な基盤に基づく健康増進やリラクゼーションに有効な療養・保養プログラムを提供するクアオルト(健康保養地)をつくる。また、環境への負荷が低い公共交通機関などでつなげることで、優しさをアピールする。</p> <p>(例)都市生活者向けリフレッシュプログラム&体内リズム調整プログラム/全国の企業・団体健康保険組合加入者向け定期検診と併せた生活改善指導プログラム/健康志向の高い観光客向け保養滞在プログラム/県内生活者向け健康増進・疾病予防プログラム/軽度の心身不調に対応する機能向上・リハビリテーションプログラム/国外からの訪日客向け長期滞在プログラム など</p>	25		■⑦白神体感自然歩道整備事業(環境生活部)
97	津軽海峡バリアフリーツアーセンター(仮称)の開設	<p>観光案内所の持つ情報に加えて、各地のバリアフリー情報を個人、旅行会社向けに情報提供する機関を設置する。また、センターからレンタル車椅子の貸し出しを行う。また、障害のある方や高齢の方などそれぞれの立場からの情報をいただき、改めて青森の良さを再発見してもらえるようなバリアフリー情報を整理するとともに、外出が困難な方に合った観光モデルプランをつくり、県外にもPRしていく。</p>	25		
■環境分野					
NEW 98	海洋汚染問題	<p>①海洋ゴミ問題を津軽海峡圏に広く知ってもらう。 ②解決策を検討、行動する。</p>	31		
■教育・人づくり分野					
NEW 99	学生が青函の将来を考える	<p>道南地域の学生が青森へ、青森の学生が道南地域へ、1つの自治体を選んでフィールドワークを行い、それぞれの自治体や青函連携に対する政策提言をまとめる。</p>	31		

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
NEW 100	津軽海峡交流圏における地域おこし経験継承事業「ラムダ塾」	津軽海峡交流圏において地域おこしに取り組んできたラムダ委員の活動を講義形式やe-Learning(動画)で発信し、これから地域おこしを行う人たち向けの塾や教材づくりを行い、経験を次の世代に伝える。	31		■③津軽海峡交流圏形成促進事業(企画政策部)
NEW 101	虹の架け橋プロジェクト	道南地域の子どもたちと青森県の子どもたちが歌やダンスを通し、交流しながら力を合わせていけるようなプロジェクト。	31		
NEW 102	青森県、道南地域子どもたちによるのお祭り、伝統芸能への合同参加	参加者が減少している地域のお祭り、継承が危惧される伝統芸能について、青森県と道南の子供たちが相互に参加、交流できる機会をつくり、後継者育成、地域の活性化、伝統の継承を図る。	31		
NEW 103	子どもたちによる青函交通モードレポート集	子どもたちが、様々な津軽海峡交流圏での交流活動において新幹線、フェリーなど各種の交通モードを利用した際に、「こども目線」によるレポートの作成、提出を行うことで、大人が気づかない新たな魅力やアイデアを引き出す。	31		
NEW 104	津軽海峡交流圏に残る伝統芸能のアーカイブ作成	津軽海峡交流圏に残る伝統芸能のアーカイブを作成することにより、次世代への伝承に加えて、圏域外からの評価や新たな魅力の発見が図られる。近年は、海外のクラブミュージックシーンで伝統的なもの、民族音楽的なものが評価されている。外からの方に向けて良いものをしっかり残していく取組が必要。	31		
NEW 105	津軽海峡交流圏「ちがうもの」「おなじもの」探し	津軽海峡交流圏では、「ねぶた・ねぶた」、「ほたて」、「りんご」など共通している地域資源があるが、それぞれの地域で違いや工夫があることはあまり知られていない。このため、これらの共通点と違いを知ること、それぞれの地域の魅力の再認識と再発見や学びあいにより、更なる地域資源の磨き上げにつなげる。	31		

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
NEW 106	子どもたちによる、縄文など青森県・道南地域の歴史を調べての情報発信	津軽交流圏の子どもたちが、縄文をはじめとした青森県と北海道の共通の歴史、文化を自ら学び、それを発信することで、圏域としての更なる意識の醸成と認知度の向上を図る。	31		
NEW 107	立志挑戦塾との連携・コラボ	圏域におけるリーダー役が期待される立志挑戦塾の塾生と、圏域の各地で地域活性化や交流促進に向けて実践的な取組をしているラムダ委員が連携することにより、圏域各地での取組の相乗効果や広がりが期待できるとともに、津軽海峡交流圏の周知、理解の促進につながる。	31		
108	青函連絡船フォーエバー企画・セイカン★行商大作戦！	青函連絡船が就航を終えてから30周年の節目の年に、青森県と道南地域の農林水産高校生に、津軽海峡フェリーの船内などで「行商」という形で相互に出向き、他エリアでの販売体験を通じた交流をさせる。	30		
109	函館・青森美食の合同次世代育成プログラム	美食のまち函館・青森を維持するために、調理人の育成に向けて奨学金制度や視察研修制度などの充実を図る。	29	■平成29年度、「津軽海峡エリア料理人フォーラム」の開催。	
110	津軽海峡交流圏インターンシップ事業	圏域外の学生の受け皿となる津軽海峡交流圏での体験型インターンシップの受入れ体制を整えるとともに、圏域内の学生たちに圏域内の企業の良さを伝えることにより、この圏域で働くことの魅力を知ってもらう。	29		■⑪あomorインターンシップ・就活応援事業(商工労働部)
111	つながろう、農林水産高校生！！	圏域内の農林水産高校生の相互地域での販売体験による交流を、地域の賑わいづくりや高校生の地元定着へつなげる。	29		

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
112	津軽海峡ユニバーシティで学ぼう！	津軽海峡交流圏にある大学で開催されている大学公開講座を一体感を持った運営により、一般的な観光とは異なる人の流れを創り出し、地域内の交流を活発化する。	28		
113	来て！見て！暮らして！ 津軽海峡交流圏ロングホームステイ	圏外からの大学生たちが津軽海峡交流圏で過ごす4年間はこのロングホームステイと捉えられることから、この期間内にとことん津軽海峡交流圏の魅力を伝え、ファンにしてみよう。域外へのアピールとして、仙台や北関東での青森・函館合同大学説明会の開催等を行うとともに、域内の魅力向上事業として、青森と函館の学生との学術的などを行う。	27	■弘前大学「オール青森で取り組む『地域創生人材』育成・定着事業」が文部科学省の「COC+」に採択。	
114	歌でつなぐ津軽海峡プロジェクト2	デジタルが主流の今、あえてアナログな交流を通して心をつなぐプロジェクトとして、子どもたちから集めた手紙やメッセージをもとに、テーマソングを作る。 青森側から道南側の子どもたちへ、自分たちの住むところの人・もの・ことの自慢を中心に手紙を書いてもらい、道南の子どもたちにも同じように返事を書いてもらい、それらの手紙の中からのいい言葉を拾い集め、歌詞を作る。	27		
115	歌でつなぐ津軽海峡プロジェクト	学校などの協力を得ながら、子供たちに自分たちの住んでいるところの人・もの・ことの自慢を中心に手紙を書いてもらい、青森県側から道南側の子供たちに届ける。同じように道南の子にも返事を書いてもらい、交流していく。その様子を番組化するとともに、手紙の中にある言葉を拾い集め、歌詞を作る。	26		
116	キャンプで賑わう奥津軽いまべつ駅周辺づくり	奥津軽いまべつ駅周辺のキャンプ場等に地元大学のゼミ合宿などを積極的に招致し、住民との交流を促進する。	25		

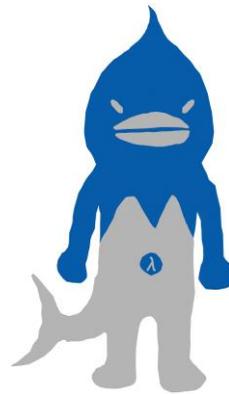
通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
117	トモダチ100人できるかな！	青森県と道南地域の小学校が姉妹校提携を結び、交流を行う。4年生頃から交流を始め、修学旅行でお互いの小学校への訪問や迎える側によるガイドを行うとともに、それぞれの地域の比較をしながら津軽海峡交流圏の学習を深める。 中・高校生になってもインターネット等での交流や双方向の訪問が自然の流れになっていくと理想的。 大学生になると、それぞれの地域へ進学することも多いため、小学生時代の交流が深まる可能性もある。その中で、サークルやゼミの合宿での双方向の訪問に係る経費の割引制度や、フィールドワーク調査時の便宜を図る体制づくり、学生間のもてなしなどがあるとよい。	26	<p>■平成26年度、北海道総合政策部交通政策局新幹線推進室主催の新幹線ドミノ大会に青森大学と弘前大学の学生が参加した。</p> <p>■平成26年度、キャンパスコンソーシアム函館が主催する「HAKODATEアカデミックリング2014」に、学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアムの学生委員会「いしてまい」が参加。</p> <p>■平成30年7月21日・7月26日、海と日本プロジェクトによる津軽海峡こども調査団の開催。</p>	
118	縄文人は津軽海峡を泳いだの！？	「三内丸山遺跡」を道南地域の方に知っていただく機会の一つとして、函館の縄文文化交流センターとの比較を通し、縄文文化を学ぶ。両施設での体験学習(製作体験、食体験)や、両地域の縄文文化の違いや同じものを見つけ、どのように文化を共有し合っていたのか、現在に至るまでの交流を見つけ出す。これにより、地元の良さ、文化の再発見も期待。	26		<p>■⑳㉑JOMONムーブメント拡大推進事業(企画政策部)</p> <p>■㉒JOMON世界への挑戦推進事業(企画政策部)</p>
119	そもそも「津軽海峡交流圏」ってなあに？	小学校の社会科学習での地域を知る教材の一つとして、「津軽海峡交流圏」を学べる冊子を作り、両方の修学旅行の事前学習資料として活用する。 小学生の教材としての内容を重視し、具体例を挙げながらイラストや写真を多用し、観光名所の紹介もする。また、交通手段の地図を掲載し、新幹線が可能にさせる時間短縮を明確にする。その他、地元民は知っているが他県民が知らないことをまとめたり、ピカイチデータを活用してデータを比較分析する。最後は「2030年の津軽海峡交流圏は？」というテーマで締めくくり、子供たちの未来の交流圏の形が出てくることを期待する。	26		
120	青森県版聞き書き甲子園の実施	学生が、県内の名人・職人を訪ね、知恵や技術を聞き出したものを記録、発表する「青森県版聞き書き甲子園」を実施する。	25		

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
121	津軽海峡を挟んで同世代がつながる仕組み	津軽海峡合コン(若い世代間)、人生の名人交流企画(高齢者)、子ども交流企画(小中高生)など、海峡を挟んだ同世代がつながる仕組みをつくる。	25	<p>■平成25年度、学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアムとキャンパス・コンソーシアム函館が連携。</p> <p>■平成26年度、佐井村と道南地域との交流・連携を目的とした観光モデルコースを検討。</p> <p>■平成26年度、「半島の手仕事」体験プログラム、「半島の遊び」、半島ワークショップなどを行う「津軽でつながる半島のじかん」の開催。</p> <p>■平成26年度、北海道道南地域との交流圏形成や連携・協力体制の強化を図り、観光事業者・関係者を招いたモニターツアーの実施。</p> <p>■平成26年度、キャンパスコンソーシアム函館が主催する「HAKODATEアカデミックリング2014」に、学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアムの学生委員会「いしてまい」が参加。</p> <p>■平成26年度、北海道総合政策部交通政策局新幹線推進室主催の新幹線ドミノ大会に青森大学と弘前大学の学生が参加した。</p> <p>■平成28年度、函館市において、歌舞伎鑑賞ツアーのPRを実施。</p> <p>■平成29年10月14日、「津軽海峡交流圏郷土芸能祭」を江差で初開催。</p> <p>■平成30年10月6日、「第2回津軽海峡交流圏郷土芸能祭」を金木町で開催。</p> <p>■令和元年6月30日、「第3回津軽海峡交流圏郷土芸能祭」を佐井村で開催。</p>	<p>■②⑤道南と津軽・夏泊・下北半島との連携促進事業(東青地域県民局)</p> <p>■②⑥道南の生徒への青森の魅力発信事業(総務部)</p> <p>■②⑧あおもりキャンパスLIFE魅力再発見推進事業(総務部)</p> <p>■②⑨農山漁村でとことん「学び・交流・体験」事業(農山漁村体験留学支援事業「津軽海峡交流編」)(教育庁)</p>

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
122	県民が県内を知る仕組み、きっかけづくり	県内事業者や学生間の交流、視察、県内旅行の推奨を図るなど、県民が県内の他の地域を知る仕組みやきっかけづくりに取り組む。	25		<ul style="list-style-type: none"> ■②⑥②⑦つながる県民プロジェクト事業(企画政策部) ■②⑧②⑨世界に向けた「青森ブランド」発信事業(企画政策部) ■③⑩未来へとつなぐ「青森ブランド」ムーブメント醸成事業(企画政策部)
123	シンボル資源を再認識する場づくり	収穫量日本一のりんごや世界遺産登録を目指す縄文遺跡群など、全国的にも知名度が高く本県のシンボルとも言える資源について、県民が改めてその重要性を認識し、更なる活用を進めていくようなきっかけづくりを行う。	25		<ul style="list-style-type: none"> ■②⑥②⑦青森県基本計画「青森ブランド」普及促進事業(企画政策部) ■②⑥②⑦縄文ムーブメント拡大事業(企画政策部) ■②⑥②⑦白神山地21年目からの保全と活用推進プロジェクト事業(環境生活部) ■②⑥②⑦白神山地エコツアーリズム資源可能性調査事業(環境生活部) ■②⑤②⑥白神の食めぐり観光促進事業(中南地域県民局) ■②⑥②⑦三陸復興国立公園の新たな魅力発信事業(三八地域県民局) ■②⑥②⑦道南地域からの上北地域誘客促進事業(上北地域県民局) ■③①オール青森で挑む！JOMON世界遺産登録推進事業 ■平成25年度～、ハクチョウのまち再生(平内町)
124	100人以上でワールドカフェミーティング	あらゆる年齢・職業の方々に、青森県の元気づくりに取り組むという動機付けをするため、普段思っていること、感じていることを率直かつポジティブなルールでアウトプットする場をつくる。	25		

通番	テーマ	内容	提案年度	取組状況(ラムダ作戦会議・企業団体等)	取組状況(行政)
■その他					
125	世界の海峡圏との連携体制の構築	ドーバー海峡圏、関門海峡圏などと、姉妹圏の構築・連携を図る。	25	■平成29年度、津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議委員による関門海峡の連携・交流状況の視察を実施。	
126	県の政策を積極的にPRする条例の制定	「日本酒で乾杯条例」「乾杯は青森県産品でお願いします条例」「新幹線を見たら手を振る条例」「縄文文化を大切にす条例」などのように、県の政策を効果的にPRできるような条例を制定する。	25		
■北海道新幹線開業以前の状態を前提としたもの					
127	奥津軽いまべつ駅に特急を臨時停車してもらう仕掛け	現在、津軽今別駅への特急列車の停車本数が1日に2往復であることから、臨時停車してもらうためのイベント等を実施して津軽今別駅への乗降需要を創出する。 (例)DMV(デュアル・モード・ビークル)の導入を視野に入れた津軽半島を周遊できるコースづくり、津軽今別駅を起点としたモデルツアーの実施など	25		
128	新幹線の路線愛称「青函新幹線」の制定	北海道新幹線新青森・新函館北斗間に、愛称をつける。	25		

II 關係資料



■関係資料 目次

番号	タイトル	ページ
1	津軽海峡交流圏の形成を目指して～λ（ラムダ）プロジェクト～	46
2	津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議名簿	50
3	青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議及び津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議の記録	52
4	北海道新幹線 新青森・新函館北斗間について	57

1 津軽海峡交流圏の形成を目指して～λ（ラムダ）プロジェクト～

青 森 県

（1）北海道新幹線新青森・新函館北斗開業

平成 28 年 3 月 26 日に、北海道新幹線新青森・新函館北斗間が開業し、最速 61 分で結ばれ、青森県にも津軽半島の今別町に奥津軽いまべつ駅が設置された。平成 31 年 3 月 16 日からは、新幹線の青函トンネル内の走行速度が 140km/h から 160km/h へ向上し、新青森・新函館北斗間は最速 57 分で結ばれている。青函連絡船の時代が 3 時間 50 分であったこと、青森・函館間の特急列車が約 2 時間要していたことを考えると両地域の時間距離は大幅に短縮された。

北海道新幹線開業により、観光・ビジネスを始め、医療、教育など様々な分野において道南との交流が深まっていくものと考えられることから、こうした将来の姿を見据え、青森県では「λ（ラムダ）プロジェクト」に取り組んでいる。

（2）λ（ラムダ）プロジェクト

「λ（ラムダ）プロジェクト」とは、青森県全域と函館を中心とする道南地域とを一つの圏域とする「津軽海峡交流圏」の形成を進め、圏域内の交流の活発化を図るとともに、圏域外からの交流人口の拡大と訪問者の滞留時間の質的・量的拡大を目指す取り組みである。

プロジェクト名は、新函館北斗駅から新青森駅を通過して八戸駅への新幹線のルートと、新青森駅から弘前駅への奥羽本線のルートの形が、ギリシャ文字のλ（ラムダ）に見立てることができることに由来する。

青森、弘前、八戸だけではなく、青森県の 4 つ目の新幹線駅となる奥津軽いまべつ駅の周辺地域、下北地域など本県全域と、道南地域との交流を促進し、「津軽海峡交流圏」の形成につなげていきたい。

（3）青森県と道南地域

津軽海峡交流圏の対象エリアは、青森県 40 市町村、北海道渡島地域 11 市町及び檜山地域 7 町からなる道南地域である。圏域内の人口は、175 万人、面積は 16,214 km²、総生産は 5 兆 9,451 億円、観光客数は 4,777 万人となっている。

これは、青森県単独の場合と比較して約 1.3～1.7 倍に相当するが、両地域がそれぞれ持っている地域資源などの強みを組み合わせることによって、さらなる相乗効果を発揮できると考えられる。

青森県と道南地域の交流の歴史は古く、縄文時代から交流があったと言われている。明治 4 年に青森県が設置された際にも檜山地域が青森県に含まれ

ていたことや、青森県から道南に移住した人が多いことなど、歴史的・文化的なつながりが深い。こうした地域において新幹線開業という共通の大きなチャンスを見据えた連携の機運は高まってきており、すでにビジネス面などにおける連携事例が出てきている。こうした動きを、様々な分野でさらに加速させていきたい。

【津軽海峡交流圏の概要】

区分	津軽海峡交流圏		
		青森県	道南地域 (渡島地域+檜山地域)
人口(万人)	175	131	44
面積(km ²)	16,214	9,646	6,568
総生産(億円)	59,451	45,442	14,009
観光客数(千人)	47,776	35,033	12,743

出典：平成27年国勢調査、全国都道府県市区町村別面積調(平成29年10月1日時点)、平成27年度青森県県民経済計算、平成27年度道民経済計算、平成29年青森県観光入込客統計、平成29年度北海道観光入込客数調査報告書

<参考>

渡島地域(11市町)・・・函館市、北斗市、松前町、福島町、知内町、木古内町、七飯町、鹿部町、森町、八雲町、長万部町
 檜山地域(7町)・・・江差町、上ノ国町、厚沢部町、乙部町、奥尻町、今金町、せたな町

(4) λ (ラムダ) プロジェクトの推進体制～津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議開始

「λ (ラムダ) プロジェクト」を推進するエンジン役となるのが、民間委員で構成する「津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議」である。この会議は、現場で様々な成功事例を生み出し活躍している、メンバーの掟にふさわしい方々に就任していただいている。

津軽海峡交流圏形成を進めていくためには、本県と道南地域との連携を一層深めることが重要である。そこで、平成29年6月にスタートを切った「津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議」においては、新たなメンバーとして北海道側の委員も加え、北海道側からの視点での事業提案等を期待すべく体制の強化も図ったところである。

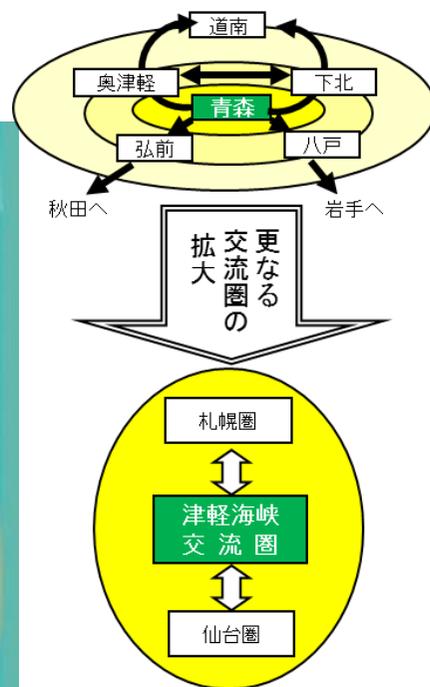
委員の方々には、これまでにない新たな視点で、交流圏形成に向けた様々なアイデアを提案していただくようお願いしており、併せて、委員自らが、自らのフィールドで津軽海峡交流圏の形成に向けた活動に汗をかいていただくこととしている。

【メンバーの掟】

- ①津軽海峡交流圏を元気にしたいという熱い思いがある
- ②前向きである
- ③面白いことが好きである
- ④自ら汗をかく
- ⑤交流圏形成の頭脳である

また、県においては、副知事をトップとする津軽海峡交流圏形成促進庁内会議や、北海道庁との連絡調整会議を設置し、津軽海峡交流圏の形成に向けて取り組んでいくこととしている。

<参考> 津軽海峡交流圏の形成



[可能性]

- 北海道新幹線開業は、観光、経済、医療、教育、文化など様々な分野に開業効果が波及する可能性を持つ、北海道と青森県に共通する**ビッグチャンス**
- 青森県と道南地域は、地理的・歴史的・文化的に**つながり**のある地域



[目指す姿]

青森県と道南地域が一体となった「津軽海峡交流圏」を形成し、

- ① 圏域内の交流の活発化、
- ② 圏域外からの交流人口の拡大と滞留時間の質的・量的拡大を図っていく。

2 津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議名簿

■委員(50音順)

	所 属	職 名	氏 名
1	NPO法人かなぎ元気倶楽部	専務理事	伊藤 一弘
2	函館大学	准教授・就職委員 地域連携センター長	大橋 美幸
3	株式会社百舌		尾崎 伸行
4	道南いさりび鉄道株式会社	経営企画部 専任部長	勝又 康郎
5	北海道旅客鉄道株式会社函館支社	函館支社次長(営業)【観光開発室長】	上井 雅司
6	一般財団法人 VISITはちのへ	国内誘客物産課 課長	木村 聡
7	株式会社ジェイ・ファイン	代表取締役	木谷 敏雄
8	株式会社あおもりSEIAN	代表取締役	後藤 清安
9	株式会社シンプルウェイ	代表取締役	阪口 あき子
10	公益社団法人弘前観光コンベンション協会	主事	佐藤 卓
11	Yプロジェクト株式会社	代表取締役	島 康子
12	青森県商工会議所連合会		鈴木 匡
13	特定非営利活動法人 おいらせ自然楽校	代表理事	外井 亜希
14	株式会社また旅くらぶ	代表取締役	高木 まゆみ
15	津軽海峡フェリー株式会社	社長室長	高橋 俊介
16	一般社団法人北海道商工会議所連合会	政策企画部政策企画課長	立藤 雄大
17	有限会社リングミュージック	マネージャー	樋川 由佳子

18	株式会社JR東日本青森商業開発	代表取締役社長	富田 勝己
19	NPO法人ACTY	理事長	町田 直子
20	東日本旅客鉄道株式会社盛岡支社青森支店	青森支店長	三上 政勝
21	フリープランナー		三津谷 あゆみ
22	江差いにしえ資源研究会	会長	室谷 元男
23	弘前大学人文社会科学部	教授	森 樹男
24	紀行作家		山内 史子
25	公益社団法人青森観光コンベンション協会	企画事業課長	油布 幸大

■アドバイザー

	所 属	職 名	氏 名
	日本経済研究所	常務理事 地域創造業務統括 地域未来研究センター長 兼 調査局長	大西 達也
	日本銀行青森支店	支店長	勝浦 大達
	日本銀行函館支店	支店長	加藤 健吾

■オブザーバー

	所 属	職 名	氏 名
	青森銀行	地域振興部 地域振興課 業務役	氣田 直樹
	みちのく銀行	地域創生部 参与	鶴岡 真治
	北洋銀行	函館中央支店 統括副支店長	雪野 健一郎
	北海道銀行	函館支店 副支店長	尾田 聡

3 青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議及び津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議の活動記録

平成 25 年 3 月 26 日	第 1 回青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 開催
平成 25 年 5 月 2 日	第 1 回交流圏イメージづくりチーム会議 開催
平成 25 年 5 月 9 日	第 1 回交流圏創造チーム会議 開催
平成 25 年 5 月 28～29 日	第 2 回交流圏イメージづくりチーム会議 開催
平成 25 年 6 月 17 日	第 2 回交流圏創造チーム会議 開催
平成 25 年 7 月 9 日	第 3 回交流圏創造チーム会議 開催
平成 25 年 7 月 12 日	第 3 回交流圏イメージづくりチーム会議 開催
平成 25 年 7 月 29 日	第 2 回青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 開催
平成 25 年 8 月 28 日	λ (ラムダ) プロジェクトに関する提案公表
平成 25 年 12 月 12 日	第 4 回交流圏イメージづくりチーム会議 開催
平成 25 年 12 月 13 日	第 4 回交流圏創造チーム会議 開催
平成 26 年 3 月 15 日	第 5 回交流圏イメージづくりチーム会議 開催 (公開ナマ作戦会議)
平成 26 年 3 月 27 日	第 5 回交流圏創造チーム会議 開催
平成 26 年 4 月 18 日	第 3 回青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 開催 第 6 回交流圏創造チーム会議 開催 第 6 回交流圏イメージづくりチーム会議 開催

平成 26 年 5 月 15 日	第 7 回交流圏イメージづくりチーム会議 開催
平成 26 年 5 月 16 日	第 7 回交流圏創造チーム会議 開催
平成 26 年 5 月 26 日	第 8 回交流圏創造チーム会議 開催
平成 26 年 5 月 27 日	第 8 回交流圏イメージづくりチーム会議 開催
平成 26 年 6 月 27 日	第 4 回青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 開催
平成 26 年 7 月 15 日	λ (ラムダ) プロジェクトに関する提案「津軽海峡交流圏の未来を変える挑戦」公表
平成 26 年 12 月 18 日	第 9 回交流圏創造チーム会議 開催
平成 26 年 12 月 25 日	第 9 回交流圏イメージづくりチーム会議 開催
平成 27 年 2 月 12 日	第 10 回交流圏イメージづくりチーム会議 開催
平成 27 年 3 月 14 日	津軽海峡交流圏公開生バトル I N 函館 開催
平成 27 年 3 月 17 日	第 10 回交流圏創造チーム会議 開催
平成 27 年 5 月 13 日	第 6 回青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 開催 第 11 回交流圏イメージづくりチーム会議 開催
平成 27 年 5 月 26 日	第 11 回交流圏創造チーム会議 開催
平成 27 年 7 月 10 日	第 7 回青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 開催
平成 27 年 8 月 5 日	λ (ラムダ) プロジェクトに関する提案「津軽海峡交流圏の未来を変える挑戦 2015」公表
平成 28 年 1 月 7 日	第 1 2 回チーム会議 (合同チーム会議) 開催
平成 28 年 1 月 29 日	第 1 3 回交流圏イメージづくり会議 開催

平成 28 年 5 月 11 日	第 8 回青森家津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 開催 第 1 3 回交流圏創造チーム会議 開催 第 1 4 回交流圏イメージづくり会議 開催
平成 28 年 6 月 3 日	第 1 4 回交流圏創造チーム会議 開催 第 1 5 回交流圏イメージづくり会議 開催 (合同チーム会議)
平成 28 年 7 月 5 日	第 9 回青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 開催 第 1 5 回交流圏創造チーム会議 開催 第 1 6 回交流圏イメージづくり会議 開催
平成 28 年 8 月 17 日	λ (ラムダ) プロジェクトに関する提案「津軽海峡交流圏の未来を変える挑戦 2016」公表
平成 28 年 9 月 23 日	第 1 0 回青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 開催
平成 28 年 10 月 1 日	青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議意見交換会 開催
平成 28 年 11 月 13 日	第 1 1 回青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 開催
平成 28 年 12 月 19 日	第 1 7 回交流圏イメージづくり会議 開催
平成 28 年 12 月 20 日	第 1 6 回交流圏創造チーム会議 開催
平成 26 年 12 月 25 日	第 9 回交流圏イメージづくりチーム会議 開催
平成 29 年 2 月 10 日	青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議報告会 開催
平成 29 年 3 月 26 日	青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議による北海道新幹線開業 1 周年 PR 活動 実施
平成 29 年 6 月 6 日	第 1 回津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 開催
平成 29 年 7 月 19 日	第 2 回津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 開催

平成 29 年 9 月 14 日	第 3 回津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議	開催
平成 29 年 10 月 23～24 日	ラムダ作戦会委員視察（関門海峡）	
平成 29 年 11 月 15～17 日	ラムダ作戦会委員視察（環瀬戸内地域）	
平成 30 年 3 月 15 日	第 4 回津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議	開催
平成 30 年 6 月 5 日	第 5 回津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議	開催
平成 30 年 7 月 18 日	第 6 回津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議	開催
平成 30 年 11 月 30 日	ラムダ作戦会議情報交換会	開催
平成 31 年 2 月 22 日	第 7 回津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議	開催
平成 31 年 4 月 24 日	第 1 回津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議	開催
令和元年 6 月 3 日	第 1 回人財育成チーム会議	開催
令和元年 6 月 17 日	第 1 回産業振興チーム会議	開催
令和元年 6 月 24 日	第 1 回情報発信チーム会議	開催
令和元年 7 月 3 日	第 2 回産業振興チーム会議	開催
令和元年 7 月 30 日	第 2 回人財育成チーム会議	開催
令和元年 7 月 30 日	第 2 回津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議	開催
令和元年 8 月 26 日	第 3 回産業振興チーム会議	開催
令和元年 9 月 3 日	第 1 回ラムダ塾	開催
令和元年 9 月 11 日	第 2 回情報発信チーム会議	開催

令和元年 10 月 7 日	第 4 回産業振興チーム会議 開催
令和元年 10 月 7 日	津軽海峡圏ウェルネス博キックオフセミナー 開催
令和元年 10 月 7 日	津軽海峡圏ウェルネス博 開催
~2 月末	
令和元年 11 月 13 日	第 3 回情報発信チーム会議 開催
令和元年 11 月 18 日	第 2 回ラムダ塾 開催

4 北海道新幹線 新青森・新函館北斗間について

(1) 概要



<新青森・新函館北斗間について>

■開業日：平成 28 年 3 月 26 日

■運行主体：JR 北海道

■運行本数：13 往復

<参考>新青森・函館間の特急 10 往復

■所要時間（最速）：57 分

■新幹線の駅：

青森県 新青森駅（既設）、
奥津軽いまべつ駅（新設）

北海道 木古内駅（新設）、
新函館北斗駅（新設）

<参考>新幹線駅の乗車人員（平成 30 年度 1 日平均）

八戸駅 3,481 人

七戸十和田駅 775 人

新青森駅 4,219 人

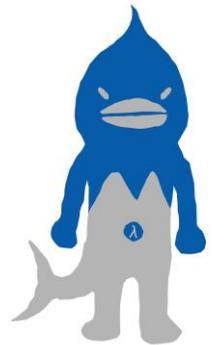
奥津軽いまべつ駅 約 40 人

※JR 東日本データ及び JR 北海道聞き取り

(2) 北海道新幹線新青森・新函館北斗間の経過

昭和 39 年 5 月 8 日	青函トンネル掘削開始
昭和 47 年 6 月 29 日	北海道新幹線（青森・札幌間）の基本計画決定
昭和 48 年 11 月 13 日	北海道新幹線（青森・札幌間）の整備計画決定
昭和 63 年 3 月 13 日	青函トンネル開業（延長約 54km, 建設費約 6,500 億円）
平成 10 年 2 月 3 日	新青森・札幌間の駅・ルート公表
平成 14 年 1 月 8 日	新青森・札幌間 工事实施計画認可申請（その 1）
平成 17 年 4 月 20 日	新青森・新函館（仮称）間 工事实施計画追加認可申請
平成 17 年 4 月 27 日	新青森・新函館（仮称）間 工事实施計画（その 1）認可
平成 17 年 5 月 22 日	新青森・新函館（仮称）間 建設工事起工式
平成 22 年 5 月 19 日	新青森・新函館（仮称）間 工事实施計画（その 2）認可
平成 24 年 11 月 18 日	青森軌道敷設工事 安全祈願並びにレール発進式
平成 25 年 1 月 18 日	新青森・新函館（仮称）間 工事实施計画変更認可
平成 25 年 4 月 26 日	駅名「奥津軽いまべつ駅」今別町が J R 北海道へ要望

平成 25 年 6 月 4 日	奥津軽（仮称）駅 新築工事安全祈願
平成 26 年 4 月 16 日	北海道新幹線用車両（H 5 系）の概要・デザイン発表
平成 26 年 6 月 11 日	北海道新幹線新駅の駅名発表 奥津軽（仮称）駅→ 奥津軽いまべつ駅 新函館（仮称）駅→ 新函館北斗駅
平成 26 年 11 月 1 日	北海道新幹線「新青森・新函館北斗間」レール締結式
平成 26 年 11 月 20 日	北海道新幹線列車名「はやぶさ」「はやて」 及びH 5 系シンボルマークの決定
平成 26 年 12 月 1 日	H 5 系車両による走行試験開始
平成 27 年 6 月 30 日	奥津軽いまべつ駅建築工事しゅん功
平成 27 年 9 月 16 日	北海道新幹線（新青森・新函館北斗間）運行計画概要発表
平成 27 年 12 月 18 日	北海道新幹線（新青森・新函館北斗間）運行ダイヤ発表
平成 28 年 3 月 26 日	北海道新幹線（新青森・新函館北斗間）開業
平成 28 年 4 月 26 日	北海道新幹線「新青森・新函館北斗間」工事実施計画第 6 回変更認可
平成 30 年 3 月 13 日	青函トンネル開業 3 0 周年
平成 31 年 3 月 16 日	青函トンネル内の新幹線の走行速度が 140km/h から 160km/h へ向上



λ (ラムダ) プロジェクト
シンボルキャラクター

「マギユロウ」

SLA
プロジェクト

【事務局】

青森県 企画政策部 交通政策課 新幹線・地域交通グループ

〒030-8570 青森県青森市長島一丁目1番1号

電話 017-734-9152 FAX 017-734-8035